2025年度

国際介護福祉科

1年生

授業計画（シラバス）

シラバス (授業概要)		年度	2025年度		
		科目コード	F1-K01		
時間数は45分換算					
授業科目名				学科・コース	
Advanced Japanese I 日本語応用 I				国際介護福祉学科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	前期	A 選択	30	1	森岡 光秀 堰口 千春 落合 史乃 神谷 由佳
授業の目的					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生が介護の理念や初歩的な専門知識を得るために支障がない日本語力を身に着ける。 ・ 日本人とのコミュニケーションがスムーズに行えるように日本語の定着を図る。 					
授業の到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業において教員が使う日本語を理解し、介護についての知識を得ることができる。 ・ アルバイト先で同僚や利用者とコミュニケーションが取れる。 ・ JLPT N2 または N3 合格 					
授業方式					
対面	☐	ライブ型	☐	オンデマンド型	
授業形態					
講義	☐	演習	☐	実験・実習・実技	
アクティブ・ラーニング					
グループワーク	☐	フィールドワーク		プレゼンテーション	
ロールプレイ	☐	PBL	☐	反転授業	
対話・議論型授業	☐	調査学習		教えあい授業	☐
その他					
成績評価の方法					
評価項目		評価観点			配点計
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	
定期試験		50%	%	%	50%
随時試験		10%	%	%	10%
随時課題		5%	5%	%	10%
出席率		%	%	15%	15%
授業態度		%	%	15%	15%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
使用テキスト・教材					
『20日で合格 日本語能力試験 N2・N3』					

シラバス (授業概要)		年度		2025年度	
		科目コード		F1-K03	
時間数は45分換算					
授業科目名				学科・コース	
Information Science Practicum 情報科学演習				国際介護福祉学科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	前期	A選択	30	1	森岡 光秀 堰口 千春 落合 史乃
授業の目的					
・介護業界はICT化、ロボット化してきているため、時代に適應できるよう、パソコンスキルや、初歩的なパソコンに関する専門用語を身に着ける。					
授業の到達目標					
・ipadの基本操作が理解できる。 ・PCの基本操作が理解できる。 ・正確に、素早く日本語が打てる。主にタイピングの練習を行う。					
授業方式					
対面	☐	ライブ型	☐	オンデマンド型	☐
授業形態					
講義	☐	演習	☐	実験・実習・実技	☐
アクティブ・ラーニング					
グループワーク	☐	フィールドワーク	☐	プレゼンテーション	☐
ロールプレイ	☐	PBL	☐	反転授業	☐
対話・議論型授業	☐	調査学習	☐	教えあい授業	☐
その他					
成績評価の方法					
評価項目	評価観点			配点計	
	知識技能	思考判断表現	関心意欲態度		
定期試験	60%	%	%	60%	
出席率	%	%	20%	20%	
授業態度	%	%	20%	20%	
	%	%	%	%	
	%	%	%	%	
	%	%	%	%	
	%	%	%	%	
使用テキスト・教材					
『留学生のためのかんたん Word/Excel/PowerPoint 入門』					

授業内容・授業計画			
内 容	時間	課題 試験	評価
1. iPadの基本操作	2		
2. パソコン操作と日本語入力 アプリケーションの立ち上げと終了 ファイルの作成、保存、削除、コピー キーボードの名称と機能	2		
3. ひらがな、カタカナの入力と漢字変換 フォルダの作成、削除、コピー	2		
4. タイピング練習 3-1. ひらがな	2		
5. "	2		
6. 3-2. カタカナ	2		
7. "	2		
8. 3-3. 漢字	2		
9. "	2		
10. 3-4. 様々な文字が混ざった単語	2		
11. "	2		
12. 3-5. 文章	2		
13. "	2		
14. "	2		
15. 定期試験 振り返り	2	○	○
その他	関連科目		

シラバス (授業概要)		年度	2025年度		
		科目コード	F1-K06		
時間数は45分換算					
授業科目名				学科・コース	
Human Dignity and Self-Reliance 人間の尊厳と自立				国際介護福祉科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	通年	必修	30	2	森岡 光秀 堰口 千春 落合 史乃
授業の目的					
・介護の仕事は対人支援であることから、人間の理解は重要である。学生は、尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う。					
授業の到達目標					
・人権思想・福祉理念の歴史的変遷を理解し、人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を習得できる。 ・人間にとっての自立の意味と、本人主体の観点から、尊厳の保持や自己決定の考え方を習得できる。					
授業方式					
対面	☐	ライブ型	☐	オンデマンド型	☐
授業形態					
講義	☐	演習		実験・実習・実技	
アクティブ・ラーニング					
グループワーク	☐	フィールドワーク		プレゼンテーション	
ロールプレイ	☐	PBL	☐	反転授業	
対話・議論型授業	☐	調査学習		教えあい授業	☐
その他					
成績評価の方法					
評価項目		評価観点			配点計
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	
定期試験		60%	%	%	60%
出席率		%	%	20%	20%
授業態度		%	%	20%	20%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
使用テキスト・教材					
『わかる！受かる！介護福祉士国家試験 2026 合格テキスト』中央法規 『見て覚える 介護福祉士国試ナビ 2026 』中央法規 『最新介護福祉士養成講座1 人間の理解』中央法規					

シラバス (授業概要)		年度	2025年度		
		科目コード	F1-K07		
時間数は45分換算					
授業科目名				学科・コース	
Relationships and Communication 人間関係とコミュニケーション				国際介護福祉科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	通年	必修	30	2	森岡 光秀 堰口 千春 落合 史乃 小杉 祐介
授業の目的					
・人間関係の基本的な概念と対人コミュニケーションの重要性を理解し、対人援助関係形成の基礎を身につける学習とする。					
授業の到達目標					
・人間関係の基本的な概念と対人コミュニケーションの重要性を学び、対人援助関係形成の知識と技術を習得する。					
授業方式					
対面	☐	ライブ型	☐	オンデマンド型	☐
授業形態					
講義	☐	演習		実験・実習・実技	
アクティブ・ラーニング					
グループワーク	☐	フィールドワーク		プレゼンテーション	
ロールプレイ	☐	PBL	☐	反転授業	☐
対話・議論型授業	☐	調査学習		教えあい授業	☐
その他					
成績評価の方法					
評価項目		評価観点			配点計
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	
定期試験		60%	%	%	60%
出席率		%	%	20%	20%
授業態度		%	%	20%	20%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
使用テキスト・教材					
『わかる！受かる！介護福祉士国家試験 2026 合格テキスト』中央法規 『見て覚える 介護福祉士国試ナビ 2026』 『書いて覚える 介護福祉士国家試験国試ドリル 2026』中央法規 『最新介護福祉士養成講座 1 人間の理解』					

シラバス (授業概要)	年度		2025 年度				
	科目コード		F1-K09				
時間数は45分換算							
授業科目名				学科・コース			
Understanding of society I 社会の理解 I				国際介護福祉科			
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員		
1	通年	必修	30	2	村井 竜二 森岡 光秀 堰口 千春 落合 史乃		
授業の目的							
<ul style="list-style-type: none"> ・個人、家族、地域、社会のしくみと、地域における生活構造について学び、生活と社会の関わりや自助、互助、共助、公助の関係について理解する学習とする。 ・地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方としくみ、その実現のための制度や施策を理解する学習とする。 ・社会保障制度の基本的な考え方としくみを理解するとともに、社会保障の現状と課題をとらえる学習とする。 							
授業の到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・個人、家族、地域、社会のしくみと、地域における生活構造について理解し、生活と社会の関わりや自助、互助、共助、公助の関係について知識を習得する。 ・地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方としくみ、その実現のための制度や施策について知識を習得する。 ・社会保障制度の基本的な考え方としくみを理解するとともに、社会保障の現状と課題をとらえるための知識を習得する。 							
授業方式							
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型			
授業形態							
講義		演習	○	実験・実習・実技			
アクティブ・ラーニング							
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション			
ロールプレイ	○	PBL	○	反転授業			
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業	○		
その他							
成績評価の方法							
評価項目	評価観点			知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
定期試験				60%	%	%	60%
出席率				%	%	20%	20%
授業態度				%	%	20%	20%
				%	%	%	%
				%	%	%	%
使用テキスト・教材							
『わかる！受かる！介護福祉士国家試験 2026 合格テキスト』中央法規 『見て覚える 介護福祉士国試ナビ 2026』中央法規 『最新介護福祉士養成講座 2 社会の理解』中央法規							

シラバス (授業概要)		年度	2025年度			
		科目コード	F1-K11			
時間数は45分換算						
授業科目名				学科・コース		
International Lifestyle and Culture 国際生活文化				国際介護福祉科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	通年	必修	60	2	森岡 光秀 堰口 千春 落合 史乃 神谷 由佳 伊藤 麻衣子	
授業の目的						
<ul style="list-style-type: none"> ・四季折々の日本の文化、食文化、年中行事、葬式や娯楽など演習を通し、介護を必要とする高齢者の多様な暮らし方を学ぶ。 ・日本の社会保障制度を理解し、税金、社会保険方式、社会手当などの日本の福祉を支える仕組みを習得する。 						
授業の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・日本の四季折々の伝統文化が理解できる。また二十四節季をもとに紡いできた日本の暮らし方を理解し、慣習が習慣となり個別性に発展するプロセスを理解できる。 ・福祉国家の基盤となる日本の社会保障制度を学び、税金のしくみを学ぶ学習とする。 						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型	○	
授業形態						
講義	○	演習	○	実験・実習・実技	○	
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク	○	プレゼンテーション		
ロールプレイ		PBL	○	反転授業		
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業		
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点	知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
定期試験			60%	%	%	60%
出席率			%	%	20%	20%
授業態度			%	%	20%	20%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
使用テキスト・教材						
『クローズアップ 日本の事情 15 日本語で学ぶ社会と文化』 ジャパンタイムズ						
『まるごと日本のことばと文化 中級1』 三修社						
『まるごと日本のことばと文化 中級2』 三修社						
『初めて学ぶ社会福祉』 中央法規						
『公共福祉という試み 福祉国家から福祉社会へ』 中央法規						
『介護福祉士国家試験 わかる！受かる！合格テキスト 2026』 中央法規						
『見て覚える！介護福祉士国試ナビ 2026』 中央法規						

授業内容・授業計画			
内 容	時間	課題 試験	評価
1. オリエンテーション 国際文化と日本文化の違いとは	2		
2. 二十四節季とは①	2		
3. 二十四節季とは②	2		
4. 四季折々の食文化について①	2		
5. 四季折々の食文化について②	2		
6. だしをとってみよう①	2		
7. だしをとった料理を作ってみよう② 一汁三菜とは	2		
8. だしをとった料理を作ってみよう③ 一汁三菜とは	2		
9. だしをとった料理を作ってみよう④ 一汁三菜とは	2		
10. 日本の年中行事と伝統料理①	2		
11. 日本の年中行事と伝統料理②	2		
12. 日本食を食べに行こう	2		
13. 日本の娯楽とは① 和歌・俳句・川柳・歌舞伎・能楽	2		
14. 日本の娯楽とは② かるた・百人一首・花札	2		
15. 日本の娯楽とは③ 相撲・あやとり・折り紙	2		
16. 葬儀について①	2		
17. 葬儀について②	2		
18. 葬儀について③	2		
19. 日本の社会保障制度について①医療保険制度	2		
20. 日本の社会保障制度について②年金制度	2		
21. 日本の社会保障制度について③年金制度	2		
22. 日本の社会保障制度について④介護保険制度	2		
23. 日本の社会保障制度について⑤介護保険制度	2		
24. 日本の社会保障制度について⑥介護保険制度	2		
25. 日本の和装文化について①着付け体験	2		
26. 日本の和装文化について②着付け体験	2		
27. 世界の民族衣装を理解しよう	2		
28. 日本の学校教育制度とビジネスマナー	2		
29. 定期試験	2	○	○
30. まとめと国家試験オリエンテーション	2		
その他	関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。			

シラバス (授業概要)		年度	2025 年度		
		科目コード	F1-K12		
時間数は45分換算					
授業科目名				学科・コース	
Information Society 情報社会				国際介護福祉学科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	前期	必須	30	1	森岡 光秀 堰口 千春 落合 史乃
授業の目的					
自分の「ミライ（働く姿）」をイメージして、その実現にむけて、今何をするべきかを考える。学生は、専門学校での学びの基礎を学ぶ「修学基礎」、Word や Excel など基本的な IT スキルを学ぶ「IT リテラシー」を通し社会人基礎力の向上を目指す。					
授業の到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の「ミライ（働く姿）」を具体的にイメージし、発信することができる。 ・基本的な Word、PowerPoint などの IT スキルを習得する。 					
授業方式					
対面	☐	ライブ型	☐	オンデマンド型	☐
授業形態					
講義	☐	演習	☐	実験・実習・実技	
アクティブ・ラーニング					
グループワーク	☐	フィールドワーク		プレゼンテーション	☐
ロールプレイ		PBL	☐	反転授業	
対話・議論型授業	☐	調査学習	☐	教えあい授業	☐
その他					
成績評価の方法					
	評価観点	知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
評価項目					
修了時課題		30%	10%	10%	50%
随時課題		10%	10%	10%	30%
受講態度		%	%	20%	20%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
使用テキスト・教材					
・動画教材					

授業内容・授業計画			
内 容	時間	課題 試験	評価
1. オリエンテーション	2		
2. "	2		
3. 社会人としての目標設定と必要な IT スキルとは	2		
4. "	2		
5. 学校ガイドライン	2		
6. 学校生活① 学生活動	2		
7. "	2		
8. 学校生活② マナー講座	2		
9. 学校生活③ 成人意識とは	2		
10. 情報セキュリティ、SNS リテラシー講座	2		
11. "	2		
12. Word 基礎	2	○	○
13. "	2	○	○
14. PowerPoint 基礎	2	○	○
15. "	2	○	○
その他	関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。			

シラバス (授業概要)		年度	2025 年度				
		科目コード	F1-K13				
時間数は45分換算							
授業科目名				学科・コース			
Basics of care I 介護の基本 I				国際介護福祉科			
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員		
1	通年	必修	60	4	森岡 光秀 堰口 千春 落合 史乃 山口 和之 川会 秀憲		
授業の目的							
<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの生活、介護を必要とする人たちの暮らし、「その人らしさ」と「生活ニーズ」、生活のしづらさとその支援を学び、介護福祉を必要とする人の理解を深めるための学習とする。 ・介護福祉を取り巻く状況、介護福祉の歴史、介護福祉の基本理念を学び、介護福祉の基本となる理念に関する知識を習得する学習とする。 ・介護福祉士の倫理を学び、介護福祉士会の倫理綱領の知識を習得する学習とする。 							
授業の到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・介護を必要とする人々の「その人らしさ」や「生活ニーズ」を理解し、生活のしづらさを把握し、介護を必要とする人々の視点に立ち、ICFの基本的な知識を身につける。 ・介護福祉を取り巻く状況や課題を理解し、現代の介護福祉における重要なテーマについて理解を深める。 ・介護福祉士会の倫理綱領の各項目を理解し、実践において適用できる。 							
授業方式							
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型			
授業形態							
講義	○	演習		実験・実習・実技			
アクティブ・ラーニング							
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション	○		
ロールプレイ		PBL		反転授業			
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業	○		
その他							
成績評価の方法							
評価項目	評価観点			知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
定期試験				60%	%	%	60%
出席率				%	%	20%	20%
授業態度				%	%	20%	20%
				%	%	%	%
				%	%	%	%
				%	%	%	%
				%	%	%	%
使用テキスト・教材							
『わかる！受かる！介護福祉士国家試験 2026 合格テキスト』中央法規							
『見て覚える 介護福祉士国試ナビ 2026』中央法規							
『書いて覚える 介護福祉士国家試験国試ドリル 2026』中央法規							
『最新介護福祉士養成講座 3, 介護の基本 I』中央法規							
『最新介護福祉士養成講座 4, 介護の基本 II』中央法規							

授業内容・授業計画			
内 容	時間	課題 試験	評価
1. 【テキスト：介護の基本Ⅱ】 第1章 介護福祉を必要とする人の理解 第1節 私たちの生活の理解	2		
2. 第2節 介護福祉を必要とする人たちの暮らし	2		
3. 第3節 「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解 第4節 生活のしづらさの理解とその支援	2		
4. ICFとは	2		
5. "	2		
6. "	2		
7. 【テキスト：介護の基本Ⅰ】 第1章 介護福祉とは 第1節 介護福祉を取り巻く状況	2		
8. "	2		
9. "	2		
10. 第2節 介護福祉の歴史	2		
11. "	2		
12. "	2		
13. "	2		
14. まとめ	2		
15. 中間テスト・振り返り	2	○	○
16. 第3節 介護福祉の基本理念	2		
17. 第2章 介護福祉士の役割と機能 第1節 社会福祉士及び介護福祉士法	2		
18. "	2		
19. 第2節 介護福祉士の活動の場と役割	2		
20. "	2		
21. 第3節 介護福祉士に求められる役割とその養成	2		
22. "	2		
23. 第4節 介護福祉士を支える団体	2		
24. 第3章 介護福祉士の倫理 第1節 介護福祉士の倫理	2		
25. 第2節 日本介護福祉士倫理綱領	2		
26. "	2		
27. "	2		
28. "	2		
29. まとめ	2		
30. 定期試験 振り返り	2	○	○
その他	関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。			

シラバス (授業概要)		年度	2025 年度		
		科目コード	F1-K14		
時間数は45分換算					
授業科目名				学科・コース	
Basics of careⅡ 介護の基本Ⅱ				国際介護福祉科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	通年	必修	60	4	森岡 光秀 堰口 千春 落合 史乃
授業の目的					
<ul style="list-style-type: none"> ・介護を必要とする人の生活を支援するという観点から、フォーマルおよびインフォーマルな支援、地域連携について事例を用いて学習する。 ・介護における安全の確保、リスクマネジメントとは何か、感染症対策を学び、介護における安全の確保とリスクマネジメントに関する理解を深めるための学習とする。 					
授業の到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・介護を必要とする人の生活を支援するという観点から、フォーマル及びインフォーマルな支援、地域連携について事例を用いて基本的な知識を身に付ける。 ・介護における安全の確保とリスクマネジメントを理解し、実践するための能力を身につける。 					
授業方式					
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型	
授業形態					
講義	○	演習		実験・実習・実技	
アクティブ・ラーニング					
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション	
ロールプレイ		PBL		反転授業	
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	○
その他					
成績評価の方法					
評価項目		評価観点			配点計
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	
定期試験		60%	%	%	60%
出席率		%	%	20%	20%
授業態度		%	%	20%	20%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
使用テキスト・教材					
<ul style="list-style-type: none"> ・最新介護福祉士養成講座 4, 介護の基本Ⅱ 2026 ・わかる！受かる！介護福祉士国家試験合格テキスト 2026 ・見て覚える 介護福祉士国試ナビ 2026 					

授業内容・授業計画			
内 容	時間	課題 試験	評価
1. 第2章 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ 第1節 利用者の生活を支えるしくみ 1 地域共生社会	2		
2. 2 地域包括ケアシステム	2		
3. "	2		
4. 第2節 生活を支えるフォーマルサービスとは 1 高齢者のためのフォーマルサービスの概要	2		
5. "	2		
6. "	2		
7. "	2		
8.2 障害者のためのフォーマルサービスの概要	2		
9. "	2		
10. "	2		
11. "	2		
12. 第3節 生活を支えるインフォーマルサービスとは 1 費用負担による区分 2 フォーマルサービスとインフォーマルサービスの関係	2		
13. "	2		
14.3 インフォーマルサービスの種類	2		
15. "	2		
16. "	2		
17. 4 インフォーマルサービスの提供者 5 介護福祉士に求められる視点	2		
18. 第4節 地域連携 1 地域連携の意義と目的	2		
19.2 地域連携に関わる機関の理解	2		
20.3 利用者を取り巻く地域連携の実際	2		
21. 事例から学ぶ地域連携の実際	2		
22. 第3章 介護における安全の確保とリスクマネジメント 第1節 介護における安全の確保	2		
23. "	2		
24. 第2節 リスクマネジメントとは	2		
25. "	2		
26. 第3節 感染対策	2		
27. "	2		
28. "	2		
29. まとめ	2		
30. 定期試験・振り返り	2	○	○
その他	関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。			

シラバス (授業概要)		年度	2025年度		
		科目コード	F1-K17		
時間数は45分換算					
授業科目名				学科・コース	
Communication skill I コミュニケーション技術 I				国際介護福祉科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	通年	必修	30	1	森岡 光秀 堰口 千春 落合 史乃 池田 大翔
授業の目的					
<ul style="list-style-type: none"> ・介護におけるコミュニケーションの基本を学び、対象や援助関係とのコミュニケーションの知識を習得する学習とする。 ・コミュニケーションの基本技術などの知識・技術を習得する学習とする。 ・対象者の特性に応じた適切なコミュニケーション方法を習得する学習とする。 					
授業の到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・介護における基本的なコミュニケーションの概念と重要性を理解し、対象者や援助関係における効果的なコミュニケーション方法を習得する。 ・介護現場で必要とされる基本的なコミュニケーション技術を習得し、実践に活かす。 ・対象者の特性や状況に応じた適切なコミュニケーション方法を理解し、実践に活かす。 					
授業方式					
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型	
授業形態					
講義		演習	○	実験・実習・実技	
アクティブ・ラーニング					
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション	
ロールプレイ	○	PBL	○	反転授業	
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業	○
その他					
成績評価の方法					
評価項目		評価観点			配点計
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	
定期試験		60%	%	%	60%
出席率		%	%	20%	20%
授業態度		%	%	20%	20%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
使用テキスト・教材					
<ul style="list-style-type: none"> ・最新介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術 2026 ・わかる！受かる！介護福祉士国家試験 合格テキスト 2026 ・見て覚える 介護福祉士国試ナビ 2026 					

授業内容・授業計画			
内 容	時間	課題 試験	評価
1. 第1章 介護におけるコミュニケーションの基本 第1節 介護におけるコミュニケーションとは 第2節 介護におけるコミュニケーションの対象	2		
2. 第3節 援助関係とコミュニケーション	2		
3. 第2章 コミュニケーションの基本技術 第1節 コミュニケーションに関する基本技術	2		
4. 第2節 言語・非言語・非言語コミュニケーションの基本	2		
5. 第3節 目的別のコミュニケーション技術	2		
6. 第4節 集団におけるコミュニケーション	2		
7. 第3章 対象者の特性に応じたコミュニケーション 第1節 コミュニケーション障害への対応の基本	2		
8. 第2節 ささまざまなコミュニケーション障害のある人への支援 1 視覚障害～ 2 聴覚障害	2		
9. 3 構音障害～ 4 失語症	2		
10. 5 認知症	2		
11. 6 うつ病、抑うつ状態～ 7 統合失調症	2		
12. 8 知的障害～ 9 発達障害	2		
13. 10 高次脳機能障害～ 11 重症心身障害	2		
14. まとめ	2		
15. 定期試験と振り返り	2	○	○
その他	関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。			

シラバス (授業概要)					年度	2025 年度	
					科目コード	F1-K19	
時間数は45分換算							
授業科目名					学科・コース		
Life support skill II 生活支援基礎					国際介護福祉科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員		
1	通年	必修	50	2	森岡 光秀 堰口 千春 落合 史乃		
授業の目的							
<ul style="list-style-type: none"> ・日本の身支度文化、慣習、和装文化の知識・技術を習得する学習とする。 ・災害時における介護福祉士の役割や、緊急時の対応方法を習得します。具体的には、ボディメカニクス、ベッドメイキング、浴衣の着方、裁縫などの手技を身に着ける。 							
授業の到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の能力を活用・発揮し、自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術を習得する。 ・根拠に基づいた支援ができるよう知識・技術を身につける。 ・安全・安楽な支援が提供できる。 							
授業方式							
対面	○	ライブ型			オンデマンド型		
授業形態							
講義	○	演習		○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング							
グループワーク		フィールドワーク			プレゼンテーション		
ロールプレイ		PBL			反転授業		
対話・議論型授業		調査学習			教えあい授業		
その他							
成績評価の方法							
評価観点			知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計	
評価項目							
定期試験			30%	%	%	30%	
技術試験			30%	%	%	30%	
出席率			%	%	20%	20%	
授業態度			%	%	20%	20%	
			%	%	%	%	
			%	%	%	%	
			%	%	%	%	
使用テキスト・教材							
『わかる！受かる！介護福祉士国家試験合格テキスト 2026』中央法規 『見て覚える 介護福祉士国試ナビ 2026』中央法規 『最新介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ』中央法規 『最新介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ』中央法規							

授業内容・授業計画			
内 容	時間	課題 試験	評価
1. オリエンテーション ボディメカニクスとは	1		
2. ベッドメイキング①	1		
3. ベッドメイキング②	4		
4. ベッドメイキング③	3		
5. ベッドメイキング④	4		
6. ベッドメイキング⑤	1	○	○
7. 日本の和装文化とは 浴衣について1①	6		
8. 日本の和装文化とは 浴衣について1②	6		
9. 自立に向けた家事の介護①	1		
10. 自立に向けた家事の介護② 裁縫 ボタン付け、雑巾の製作	6	○	○
11. 自立に向けた身じたくの介護①洗顔・耳	2		
12. 自立に向けた身じたくの介護②整髪（ベッド）	1		
13. 自立に向けた身じたくの介護③整髪（ベッド）	6		
14. 自立に向けた身じたくの介護④爪・化粧	6		
15. 自立に向けた身じたくの介護⑤爪・化粧	1		
16. 災害時における生活支援① 災害における介護福祉士の役割	1		
17. 災害時における生活支援② BCPとは	1		
18. 災害時における生活支援③ 福祉施設のBCPを調べよう	2		
19. 災害時における生活支援④ 浜松市の防災対策を理解する	1		
20. 災害時における生活支援⑤ 福祉避難所に運営について	1		
21. 応急手当の知識と技術①	4		
22. 応急手当の知識と技術②	1		
23. 応急手当の知識と技術③	4		
24. テスト	6	○	○
25. まとめ 国家試験オリエンテーション	6		
その他	関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。			

シラバス（授業概要）

時間数は45分換算

年度		2025年度				
科目コード		F1-K21				
授業科目名					学科・コース	
Life support skill I 生活支援技術 I					国際介護福祉科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	通年	必修	50	2	森岡 光秀 堰口 千春 落合 史乃 長瀬 正孝 益田 八千代 高木 秀晃 中村 久美子 宮澤 歌子 大地 隆友 本橋 幸恵 松下 美佳	
授業の目的						
自立した移動の一連の流れを学び、移動・移乗における具体的な介護技術を習得する学習とする。自立した身じたくの一連の流れを学び、利用者の状態に応じた身じたくの介助の方法を習得する学習とする。						
授業の到達目標						
自立した移動の一連の流れを理解し、移動・移乗における具体的な介護技術を習得する。自立した身じたくの一連の流れを理解し、利用者の状態に応じたみじたくの介助の方法を習得する。						
授業方式						
対面	○	ライブ型		オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習	○	実験・実習・実技	○	
アクティブ・ラーニング						
グループワーク		フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		PBL		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点	知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
定期試験			30%	%	%	30%
技術試験			30%	%	%	30%
出席率			%	%	20%	20%
授業態度			%	%	20%	20%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
使用テキスト・教材						
『わかる！受かる！介護福祉士国家試験 2026 合格テキスト』中央法規 『見て覚える 介護福祉士国試ナビ 2026』中央法規 『書いて覚える 介護福祉士国家試験国試ドリル 2026』中央法規 『最新介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I』中央法規 『最新介護福祉士養成講座 7 生活支援技術 II』中央法規						

授業内容・授業計画			
内 容	時間	課題 試験	評価
1. 【生活支援技術Ⅰ】 第3章 自立に向けた移動の介護 第1節 自立した移動とは 1 自立した移動とは 2 自立した移動の一連の流れ 3 自立に向けた移動の介護をするために 介護福祉職がすべきこと	2		
2. 第2節 自立に向けた移動・移乗の介護（演習除く） 1 移動・移乗の基本的理解 2 起居動作（寝返り、起き上がり、立ち上がり）の介助	2		
3. 起居動作（寝返り、起き上がり、立ち上がり）の介助【演習】 (1) 上方移動 (2) 水平移動 (3) 仰臥位から側臥位 (4) 起き上がりから端座位 (5) 端座位から立位	2		
4. 第2節 自立に向けた移動・移乗の介護（演習除く） 3 安楽な姿勢・体位を保持する介助	2		
5. 安楽な姿勢・体位を保持する介助【演習】 (1) 仰臥位 (2) 側臥位 (3) 半座位（ファーラー位） (4) 起座位	2		
6. 第2節 自立に向けた移動・移乗の介護（演習除く） 4 歩行の介助	2		
7. 歩行の介助【演習】 (1) 三動作歩行の介助 (2) 障害物（段差や溝）越えの介助 (3) 階段（段差）の上り下りの介助	2		
8. //	2		
9. 実技試験 三動作歩行の介助 障害物（段差）の上り下りの介助	2	○	○
10. //	2	○	○
11. 第2節 自立に向けた移動・移乗の介護（演習除く） 5 車いす（移乗・移動）の介助 6 移動・移乗のための道具・用具 第3節 移動の介護における他職種との連携 1 移動介護における他職種連携の必要性 2 他職種の役割と介護福祉職との連携	2		
12. 車いす（移乗・移動）の介助【演習】 車いすの基本的な使い方 (1) 車いすのたたみ方 (2) 車いすの広げ方 車いすの介助の実際 (1) ベッドから車いすへの移乗の介助 (2) 車いすからベッドへの移乗の介助	2		
13. 車いす（移乗・移動）の介助【演習】 車いすの介助の実際 (3) 福祉用具を使用した車いすとベッド間の移乗介助	2		
14. 車いす（移乗・移動）の介助【演習】 車いすの介助の実際 (4) 車いすでの移動の介助 (5) 坂道での介助 (6) エレベーターでの介助	2		
15. //	2		

16【生活支援技術Ⅱ】 第1章 自立に向けた身じたくの介護 第1節 自立に向けた身じたくとは 1 自立した身じたくとは 2 自立した身じたくの一連の流れ 3 自立に向けた身じたくの介護をするために 介護福祉職がすべきこと 第2節 自立に向けた身じたくの介護 1 利用者の状態や状況を確認する 2 自立に向けた介護を行う際の確認ポイント 第3節 身じたくの介護における多職種との連携 1 身じたくの介護における多職種連携の必要性 2 多職種の役割と介護福祉職との連携	2		
17. 第2節 自立に向けた身じたくの介護（演習除く） 3 利用者の状態に応じた身じたくの介助 ⑦ 口腔ケア (1) 口腔ケアとは (2) 口腔ケアを実施する前に必要な知識と技術 (3) 歯のみがき方 (4) 口腔の清拭法 (5) 口腔ケア実施時の留意点 (6) 義歯の清掃法 (7) 利用者の状態に応じた介助の視点 (8) 歯みがき介助の実際（演習除く） (9) 口腔ケアで使用する用具	2		
18. 口腔ケア【演習】 (8) 歯みがき介助の実際	2		
19. 第2節 自立に向けた身じたくの介護（演習除く） 3 利用者の状態に応じた身じたくの介助 ⑧ 衣服の着脱の介助 (1) 衣類のもつ役割 (2) 衣類の衛生管理とは (3) 利用者の状態に応じた衣服着脱の視点 (4) 衣服着脱の介助にあたって (5) 衣服着脱の介助の実際（演習除く） (6) 衣服着脱の介助の実際 全般にわたり介助が必要な場合	2		
20. 衣服の着脱の介助【演習】 (5) 衣服着脱の介助の実際 (6) 衣服着脱の介助の実際 全般にわたり介助が必要な場合	2		
21. //	2		
22. 実技試験 ベッド上での着脱介助	2	○	○
23. //	2	○	○
24. まとめ	2		
25. 定期試験 振り返り	2	○	○
その他	関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。			

シラバス（授業概要）

時間数は45分換算

					年度	2025年度				
					科目コード	F1-K22				
授業科目名						学科・コース				
Life support skill II 生活支援技術 II						国際介護福祉科				
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員					
1	通年	必修	80	2	森岡 落合 益田 中村 大地 松下	光秀 史乃 八千代 久美子 隆友 美佳	堰口 長瀬 高木 宮澤 本橋	千春 正孝 秀晃 歌子 幸恵		
授業の目的										
食事介助や誤嚥予防、食後の口腔ケアを学習する。また、入浴と清潔保持の介助方法についても学習する。さらに、排泄介助やパッド交換、おむつ介助の方法を習得する。休息・睡眠の重要性についても理解を深める。最後に、人生の最終段階のケアと死後の介護について学習し、総合的な生活支援技術を身につけることを目的とする。										
授業の到達目標										
利用者の状態に応じた食事の介助方法、誤嚥予防の支援、食後の口腔ケアを習得する。また、入浴の一連の流れと具体的な清潔保持の介助方法を身に付ける。さらに、トイレやポータブルトイレでの排泄介助、立位でのパッド交換、おむつ介助の方法を習得する。休息と睡眠の重要性についての知識を深め、人生の最終段階におけるケアの意味、死を迎える人の介護、亡くなった後の介護についての知識を習得する。										
授業方式										
対面	○	ライブ型			オンデマンド型					
授業形態										
講義	○	演習		○	実験・実習・実技			○		
アクティブ・ラーニング										
グループワーク		フィールドワーク			プレゼンテーション					
ロールプレイ		PBL			反転授業					
対話・議論型授業		調査学習			教えあい授業				○	
その他										
成績評価の方法										
				評価観点	知識 技能	思考 判断 表現	関心 意欲 態度	配点計		
評価項目										
定期試験					30%	%	%	30%		
技術試験					30%	%	%	30%		
出席率					%	%	20%	20%		
授業態度					%	%	20%	20%		
					%	%	%	%		
使用テキスト・教材										

『わかる！受かる！介護福祉士国家試験 2026 合格テキスト』中央法規
『見て覚える 介護福祉士国試ナビ 2026』中央法規
『書いて覚える 介護福祉士国家試験国試ドリル 2026』中央法規
『最新介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ』中央法規
『最新介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ』中央法規

授業内容・授業計画

内 容	時間	課題 試験	評価
1. 【生活支援技術Ⅱ】 第2章 自立に向けた食事の介護 第1節 自立した食事とは 1 自立した食事とは 2 自立した食事の一連の流れ 3 自立に向けた食事の介護をするために 介護福祉職がすべきこと 第2節 自立に向けた食事介助 1 食事の介助を行うにあたって 2 介護の基本原則にのっとった食事の介護 3 利用者の状態に応じた食事の介助（演習除く） 4 誤嚥予防のための支援 5 窒息が起こったときの対応 6 食後の口腔ケア 第3節 食事介助における多職種との連携 1 食事の介護における多職種連携の必要性 2 多職種の役割と介護福祉職との連携	2		
2. //	2		
3. 利用者の状態に応じた食事の介助【演習】 1 食卓で行う食事の介助_部分的介助が必要な利用者 2 ベッド上で行う食事の介助_片麻痺、嚥下障害があり、 座位が保てず動作全般にわたり介助が必要な利用者 誤嚥の予防のための支援【演習】 嚥下体操	2		
4. //	2		
5. 第3章 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 第1節 自立に向けた入浴・清潔保持とは 1 自立した入浴・清潔保持とは 2 自立した入浴の一連の流れ 3 自立に向けた入浴・清潔保持の介護をするために 介護福祉職がすべきこと 第2節 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 1 入浴の可否と清潔にする方法の選択 2 入浴の介助（演習除く） 3 清潔保持の介助（演習除く） 4 入浴・清潔保持のための道具・用具 第3節 入浴・清潔保持の介護における多職種との連携 1 入浴・清潔保持における多職種連携の必要性 2 多職種の役割と介護福祉職との連携 3 入浴時の変化と多職種連携	2		
6. //	2		
7. 入浴の介助 オリエンテーション	2		
8. 入浴の介助【演習】 入浴の準備 個浴での介助方法 特殊浴槽（機械浴）を使用しての入浴 いすでのリフト浴 シャワー浴	2		
9. //	2		
10. //	2		

11. 清潔保持の介助【演習】 全身清拭 部分清拭 陰部洗浄 手浴 足浴（１）座位での足浴（２）臥位での足浴 洗髪（ケリーパット）	2		
12. //	2		
13. //	2		
14. //	2		
15. 中間テスト 振り返り	2	○	○
16. 第４章 自立に向けた排泄の介護 第１節 自立した排泄とは １ 自立した排泄とは ２ 自立した排泄の一連の流れ ３ 自立に向けた排泄の介護をするために介護福祉職がすべきこと 第３節 排泄の介護における多職種との連携 １ 排泄の介護における多職種連携の必要性 ２ 多職種の役割と介護福祉職との連携	2		
17. //	2		
18. 第２節 自立に向けた排泄の介護 １ 排泄方法の選択 ２ トイレでの排泄の介助方法 ３ ポータブルトイレでの排泄の介助方法	2		
19. 第２節 自立に向けた排泄の介護【演習】 ２ トイレでの排泄の介助方法 ・歩行できる利用者の介助 ・車いす利用者の介助 ３ ポータブルトイレでの排泄の介助方法	2		
20. //	2		
21. 実技試験 ポータブルトイレでの排泄の介助方法	2	○	○
22. //	2		
23. 第２節 自立に向けた排泄の介護 ４ 立位でのパッド交換の介助 ５ 尿意、差しこみ便器での排泄の介助	2		
24. 第２節 自立に向けた排泄の介護【演習】 ４ 立位でのパッド交換の介助 ５ 尿器、差しこみ便器での排泄の介助 ・尿器を使用した排泄の介助 ・差し込み便器を使用した排泄の介助	2		
25. 第２節 自立に向けた排泄の介護 ６ おむつでの排泄の介助 ・ベッド上でのおむつ交換の介助 ・男性の尿取りパッドのあて方 ・布おむつの装着	2		
26. 第２節 自立に向けた排泄の介護【演習】 ６ おむつでの排泄の介助 ・ベッド上でのおむつ交換の介助 ・男性の尿取りパッドのあて方 ・布おむつの装着	2		
27. //	2		
28. 実技試験 ベッド上でのおむつ交換の介助	2	○	○
29. //	2		

30. 第2節 自立に向けた排泄の介護 7 頻尿、尿失禁、便秘、下痢、便失禁への対応 8 その他の排泄に関するさまざまな介助 ・自己導尿の介助 ・座薬挿入、浣腸 座薬と浣腸の理解 座薬の挿入の介助 浣腸 ・ストーマがある場合の介助 ストーマとストーマ装具 パウチ（袋）にたまった排泄物の除去	2		
31. //	2		
32. 第5章 休息・睡眠の介護 第1節 休息・睡眠とは 1 休息・睡眠とは 2 休息・睡眠の効果 3 快適な睡眠の一連の流れ 4 安眠を阻害する要因 5 休息・安眠をうながす介護をするために介護福祉職がすべきこと 第2節 休息・睡眠の介護 1 室内環境の調整 2 休息・睡眠環境を整える（演習のぞく） 3 特殊寝台と付属用具 4 睡眠障害とその支援 第3節 休息・睡眠の介護における多職種との連携 1 休息・睡眠における多職種連携の必要性 2 他職種の役割と介護福祉職との連携	2		
33. //	2		
34. 温罨法・冷罨法【演習】	2		
35. //	2		
36. 第6章 人生の最終段階における介護 第1節 人生の最終段階の言費と介護の役割 1 人生の最終段階におけるケアの意味 2 人生の最終段階におけるアセスメントの視点 第2節 人生の最終段階における介護 1 死にむかえる人の介護 2 死をむかえた人の介護 3 亡くなったあとの介護・グリーフケア 第3節 人生の採取段階における介護 1 人生の最終段階における多職種連携の必要性 2 他職種の役割と介護福祉職との連携	2		
37. //	2		
38. //	2		
39. //	2		
40. 定期テスト 振り返り	2	○	○
その他	関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。			

シラバス (授業概要)		年度		2025 年度		
		科目コード		F1-K24		
時間数は45分換算						
授業科目名				学科・コース		
Process of care I 介護過程 I				国際介護福祉科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	通年	必修	90	3	森岡 光秀 堰口 千春 落合 史乃 高杉 威一郎 袴田 真史	
授業の目的						
・学生は、利用者が望む生活の実現に向けた介護実践のために、介護過程の分析を行い、根拠に基づく課題解決の思考過程を習得する。						
授業の到達目標						
・介護過程の意義、目的、展開上の基本を理解できる。 ・アセスメントの基本を理解できる。 ・介護過程に関する基礎的な知識を活用し、介護過程を立案・展開できる。 ・立案・展開した介護過程を評価できる。						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション	○	
ロールプレイ	○	PBL	○	反転授業		
対話・議論型授業	○	調査学習	○	教えあい授業	○	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点	知識 技能	思考 判断 表現	関心 意欲 態度	配点計
定期試験			60%	%	%	60%
随時課題			%	10%	%	10%
出席率			%	%	15%	15%
授業態度			%	%	15%	15%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
使用テキスト・教材						
『わかる！受かる！介護福祉士国家試験 2026 合格テキスト』中央法規 『見て覚える 介護福祉士国試ナビ 2026』中央法規 『書いて覚える 介護福祉士国家試験国試ドリル 2026』中央法規 『最新介護福祉士養成講座 9 介護過程 第2版』中央法規						

授業内容・授業計画			
内 容	時間	課題 試験	評価
1. 第1章 介護過程とは 第1節 介護過程とは 1 介護過程の意義・目的 2 介護過程の全体像 3 介護過程と ICF（国際生活機能分類）	2		
2. 第2節 介護過程における事例検討・事例研究の必要性 1 事例研究（ケースカンファレンス） 2 事例研究（ケーススタディ） 3 倫理的配慮 4 介護福祉分野で使用する「計画」	2		
3. 第2章 介護過程の理解 第1節 介護過程の展開 1 アセスメント 2 介護計画の立案 3 介護の実施 4 評価	2		
4. 第2節 アセスメント（情報収集） 1 情報収集の意義 2 アセスメントと情報収集 3 情報収集の方法（ICF モデル使用）	2		
5. 演習 2-1 演習 2-2	2		
6. 第3節 アセスメント（解釈・関連付け・統合化） 1 解釈・関連づけ・統合化とは 2 解釈・関連づけ・統合化に必要な姿勢 3 本書におけるアセスメントの視点 4 解釈・関連づけ・統合化のトレーニング 5 生活課題の明確化	2		
7. 演習 2-3、2-4、2-5	2		
8. 第4節 介護計画の立案 1 介護計画とは 2 介護目標の設定 3 具体的な支援内容・支援方法の決定 演習 2-6	2		
9. 第5節 介護の実施 1 介護の実施とは 2 実施における留意点 3 実施の記録	2		
10. 第6節 評価 1 評価の意義と目的 2 評価の内容と方法	2		
11. 第3節 介護過程の実践的展開 第1節 介護過程の実践的展開 1 本章の目的と構成 2 事例で学ぶ介護過程の展開 第2節 「介護過程」展開の実際 事例1 グループホームにおける認知症高齢者の事例 情報収集シートから ICF に整理しよう	2		
12. 事例1 解説 事例1 アセスメント表に整理しよう	2		
13. 事例1 介護計の立案	2		
14. //	2		
15. //	2		
16. 事例1 グループワーク 自分の計画を発表しよう	2		
17. 事例1 解説	2		

18. 事例 2 脳性麻痺のある男性の事例 情報収集シートから ICF に整理しよう 事例 2 アセスメント表に整理しよう	2		
19. 事例 2 介護計画の立案	2		
20. //	2		
21. //	2		
22. 事例 2 グループワーク 自分の計画を発表しよう	2		
23. 事例 2 解説	2		
24. 事例 3 在宅における脳血管疾患のある女性の事例 情報収集シートから ICF に整理しよう 事例 3 アセスメント表に整理しよう	2		
25. 事例 3 介護計画の立案	2		
26. //	2		
27. //	2		
28. 事例 3 グループワーク 自分の計画を発表しよう	2		
29. 事例 3 解説	2		
30. 事例 4 介護老人福祉施設におけるターミナル期の女性の事例 情報収集シートから ICF に整理しよう 事例 4 アセスメント表に整理しよう	2		
31. 事例 4 介護計画の立案	2		
32. //	2		
33. //	2		
34. 事例 4 グループワーク 自分の計画を発表しよう	2		
35. 事例 4 解説	2		
36. 第 4 章 介護過程とケアマネジメント 第 1 節 介護過程とケアマネジメントの関係性 第 2 節 チームアプローチにおける介護福祉士の役割	2		
37. 第 5 章 利用者の生活と介護過程の展開 第 2 節 事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 事例 1 都会に住む 1 人暮らしの高齢者の生活支援 事例を読んで情報整理表にまとめよう	2		
38. 事例を読んで情報整理表にまとめよう	2		
39. 事例 1 アセスメント表に整理しよう	2		
40. 事例 1 介護計画の立案	2		
41. //	2		
42. 事例 1 グループワーク 自分の計画を発表しよう	2		
43. 事例 1 解説	2		
44. まとめ	2		
45. 定期試験 振り返り	2	○	○
その他	関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。			

シラバス (授業概要)			年度	2025年度		
	時間数は45分換算		科目コード	F1-K27		
授業科目名				学科・コース		
Comprehensive Care Seminar I 介護総合演習 I				国際介護福祉科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	通年	必修	30	1	森岡 光秀 堰口 千春 落合 史乃	
授業の目的						
<ul style="list-style-type: none"> ・介護実習前後・実習中の介護実習と組み合わせて進める学習とする。 ・介護福祉士養成課程において学習する内容、実践する生活支援技術、介護過程の展開の位置づけを理解し、専門職としての姿勢を習得する。 ・介護職業人おして必要な倫理、介護実践に必要な知識と技術の統合や、学生自ら介護観を形成できるように、その土台を醸成する。 						
授業の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・実習の意義・目的・目標が理解できる。 ・実習記録の意義を理解し専門職として適切な記録を書くことができる。 ・実習目標に対して、自己評価し、学習効果をまとめることができる。 						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション	○	
ロールプレイ	○	PBL		反転授業		
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点	知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
随時課題 (提出物)			10%	10%	10%	30%
出席率			%	%	20%	20%
授業態度			%	%	20%	20%
実習のまとめ			10%	10%	10%	30%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
使用テキスト・教材						
『最新介護福祉士養成講座 10 介護総合演習 I 介護実習』 実習の手引き (当校オリジナル)						

授業内容・授業計画			
内 容	時間	課題 試験	評価
1.【実習前】 介護実習の意義と目的 実習にのぞむためのマナーや心得	2		
2.【実習前】 実習施設の特徴	2		
3.【実習前】 実習施設の特徴	2		
4.【実習前】 実習事前準備（個人票・誓約書・行動目標・概要の作成）	2		
5.【実習前】 実習事前準備（個人票・誓約書・行動目標・概要の作成）	2		
6.【実習前】 実習事前準備（個人票・誓約書・行動目標・概要の作成）	2		
7.【実習前】 実習事前準備（個人票・誓約書・行動目標・概要の作成）	2	○	○
8.【実習前】 介護実習Ⅰに関する諸注意事項の確認と事前オリエンテーションの確認	2		
9.【実習前】 実習記録の書き方、課題の確認、実習の進め方	2		
10.【帰校日】 記録の整理と確認、課題や行動目標の確認	2		
11.【帰校日】 記録の整理と確認、課題や行動目標の確認	2		
12.【実習後】 お礼状、総括、自己評価表の作成	2	○	○
13.【実習後】 お礼状、総括、自己評価表の作成	2		
14.【実習後】 実習報告会準備	2		
15.【実習後】 実習報告会	2	○	○
その他	関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。			

シラバス (授業概要)			年度	2025年度		
	時間数は45分換算		科目コード	F1-K28		
授業科目名				学科・コース		
Comprehensive Care Seminar II 介護総合演習 II				国際介護福祉科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	通年	必修	40	1	森岡 光秀 堰口 千春 落合 史乃	
授業の目的						
<ul style="list-style-type: none"> ・介護実習前後・実習中の介護実習と組み合わせて進める学習とする。 ・介護福祉士養成課程において学習する内容、実践する生活支援技術、介護過程の展開の位置づけを理解し、専門職としての姿勢を習得する。 ・介護職業人おして必要な倫理、介護実践に必要な知識と技術の統合や、学生自ら介護観を形成できるように、その土台を醸成する。 						
授業の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・実習の意義・目的・目標が理解できる。 ・実習記録の意義を理解し専門職として適切な記録を書くことができる。 ・実習目標に対して、自己評価し、学習効果をまとめることができる。 						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション	○	
ロールプレイ	○	PBL		反転授業		
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点	知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
随時課題 (提出物)			10%	10%	10%	30%
出席率			%	%	%	20%
授業態度			%	%	%	20%
実習のまとめ			10%	10%	10%	30%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
使用テキスト・教材						
『最新介護福祉士養成講座 10 介護総合演習 I 介護実習』 実習の手引き (当校オリジナル)						

授業内容・授業計画			
内 容	時間	課題 試験	評価
1. 【実習前】 介護実習の意義と目的 実習にのぞむためのマナーや心得	2		
2. 【実習前】 実習施設の特徴	2		
3. 【実習前】 実習施設の特徴	2		
4. 【実習前】 実習事前準備（個人票・誓約書・行動目標・概要の作成）	2		
5. 【実習前】 実習事前準備（個人票・誓約書・行動目標・概要の作成）	2		
6. 【実習前】 実習事前準備（個人票・誓約書・行動目標・概要の作成）	2		
7. 【実習前】 実習事前準備（個人票・誓約書・行動目標・概要の作成）	2	○	○
8. 【実習前】 介護実習Ⅰに関する諸注意事項の確認と事前オリエンテーションの確認	2		
9. 【実習前】 実習記録の書き方、課題の確認、実習の進め方	2		
10. 【帰校日】 記録の整理と確認、課題や行動目標の確認	2		
11. 【帰校日】 記録の整理と確認、課題や行動目標の確認	2		
12. 【帰校日】 記録の整理と確認、課題や行動目標の確認	2		
13. 【帰校日】 記録の整理と確認、課題や行動目標の確認	2		
14. 【実習後】 お礼状、総括、自己評価表の作成	2		
15. 【実習後】 お礼状、総括、自己評価表の作成	2	○	○
16. 【実習後】 実習報告会準備	2		
17. 【実習後】 実習報告会準備	2		
18. 【実習後】 実習報告会準備	2		
19. 【実習後】 実習報告会	2		
20. 【実習後】 実習報告会	2	○	○
その他	関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。			

シラバス（授業概要）					年度	2025年度	
時間数は45分換算					科目コード	F1-K31	
授業科目名					学科・コース		
Care Training I 介護実習 I					国際介護福祉科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員		
1	通年	必修	140	4	森岡 光秀 佐藤 美哉子	堰口 千春 落合 史乃	
授業の目的							
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の個々の生活リズムや生活様式、個性を理解し、様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、生活支援技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員として、介護福祉士の役割や専門性について理解する学習とする。 							
授業の到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者や利用者家族と適切なコミュニケーションをとることができる。 ・多職種との協働の中で、介護福祉士としての役割を理解し、考察する。 ・利用者の生活や施設の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に体得する。 							
授業方式							
対面	○	ライブ型			オンデマンド型		
授業形態							
講義		演習			実験・実習・実技		○
アクティブ・ラーニング							
グループワーク		フィールドワーク			プレゼンテーション		
ロールプレイ		PBL			反転授業		
対話・議論型授業	○	調査学習			教えあい授業		
その他							
成績評価の方法							
評価項目		評価観点	知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計	
施設評価			10%	10%	20%	40%	
実習巡回での態度・意欲・内省			10%	10%	10%	30%	
記録物			10%	10%	10%	30%	
			%	%	%	%	
			%	%	%	%	
			%	%	%	%	
			%	%	%	%	
使用テキスト・教材							
『最新介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習』中央法規 実習の手引き（当校オリジナル）							

シラバス (授業概要)		年度	2025 年度		
		科目コード	F1-K32		
時間数は45分換算					
授業科目名				学科・コース	
Care Training I 介護実習Ⅱ				国際介護福祉科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	通年	必修	214	7	森岡 光秀 堰口 千春 佐藤 美哉子 落合 史乃
授業の目的					
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の個々の生活リズムや生活様式、個性を理解し、様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、生活支援技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員として、介護福祉士の役割や専門性について理解する学習とする。 ・個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成のプロセスを学習する。その際に、これまで他科目で学習した知識や技術を統合し、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。 					
授業の到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを通して利用者を理解することができる。 ・介護過程のプロセスを理解することができる。 ・他科目で学習した知識や技術を介護計画に反映できる。 					
授業方式					
対面	○	ライブ型		オンデマンド型	
授業形態					
講義		演習		実験・実習・実技	○
アクティブ・ラーニング					
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション	○
ロールプレイ		PBL		反転授業	
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業	○
その他					
成績評価の方法					
評価観点		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
評価項目					
施設評価		10%	10%	20%	40%
実習巡回での態度・意欲・内省		10%	10%	10%	30%
記録物		10%	10%	10%	30%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
使用テキスト・教材					
『最新介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習』中央法規 実習の手引き（当校オリジナル）					

授業内容・授業計画			
内 容	時間	課題 試験	評価
【実習のしおり、実習計画を基本に進める】			
高齢者・障害者 入所施設			
1 週目			
施設全体の把握、利用者と積極的にコミュニケーションを図り ケース対象利用者を決定する			
2 週目			
基本的な生活支援技術を実践し、ケース対象者の情報収集を行う			
3 週目			
基本的な生活支援技術を実践する 利用者の生活状況全体を把握し分析、利用者のニーズを導き出すこ とができる 医療・看護・リハビリなどの連携を理解できる			
4 週目			
基本的な生活支援技術を実践する 課題の抽出と介護計画の立案 医療・看護・リハビリなどの連携を理解できる			
1 週間に 1 回以上の巡回指導もしくは帰校日を設け、ケースカンフ ァレンスなどで振り返りを実施。 実習指導者とのスーパービジョンを通し、学生が自身の課題に向け て解決し、自ら実践力を高めることができる			
その他	関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。			

シラバス (授業概要)		年度	2025年度			
時間数は45分換算		科目コード	F1-K34			
授業科目名				学科・コース		
How mind and body work I こころとからだのしくみ I				国際介護福祉科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	通年	必修	90	6	佐藤 美哉子	
授業の目的						
・健康とはなにか、こころのしくみ、からだのしくみ、移動・身じたく・食事に関連したこころとからだのしくみの知識を習得する。						
授業の到達目標						
・健康とはなにか、こころのしくみ、からだのしくみ、移動・身じたく・食事に関連したこころとからだのしくみについて理解・考察することができる。						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習		実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ	○	PBL	○	反転授業		
対話・議論型授業	○	調査学習	○	教えあい授業	○	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点	知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
定期試験			60%	%	%	60%
出席率			%	%	20%	20%
授業態度			%	%	20%	20%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
使用テキスト・教材						
『最新介護福祉士養成講座 こころとからだのしくみ』中央法規 『わかる！受かる！介護福祉士国家試験 2026 合格テキスト』中央法規 『見て覚える 介護福祉士国試ナビ 2026』中央法規 『書いて覚える 介護福祉士国家試験国試ドリル 2026』中央法規						

授業内容・授業計画			
内 容	時間	課題 試験	評価
1. 序章 「健康」とは何か 1 健康の定義 2 「健康」づくり 3 健康観 4 人はなぜ病気になるのか	2		
2. 第1章 こころのしくみを理解する 第1節 人間の欲求とは 1 基本的欲求 2 社会的欲求 3 自己実現とは	2		
3. 第2節 自己実現と尊厳 1 自己概念に影響する要因 2 自立への意欲と自己概念 3 自己実現と尊厳、生きがい 4 国際的な取り組み	2		
4. 第3節 こころのしくみの基礎 1 「こころ」とは何か 2 脳のしくみ 3 認知のしくみ 4 学習・記憶・思考のしくみ	2		
5. 5 感情・情動のしくみ 6 意欲・動機づけのしくみ	2		
6. 7 適応のしくみ	2		
7. まとめ	2		
8. 確認テスト 振り返り	2	○	○
9. 第2章 からだのしくみを理解する 第1節 からだのしくみ 1 からだのしくみの理解 ① からだのつくりの理解（身体各部の名称） ② 人体の構造と機能 （1）内臓の名称 （2）骨格の名称 （3）骨格筋の名称	2		
10. ③ 細胞・組織・器官・器官系 （1）細胞 （2）遺伝 （3）脳・神経	2		
11. （4）感覚器	2		
12. （5）呼吸器	2		
13. （6）循環器	2		
14. （7）消化器	2		
15. （8）泌尿器	2		
16. （9）骨・筋肉 （10）骨・関節	2		
17. （11）筋肉 （12）神経系	2		
18. （13）生殖器・内分泌	2		
19. （14）血液・体液・リンパ液	2		
20. 2 生命の維持と恒常性のしくみ ① 生命維持と恒常性のしくみ ② 心身調和 ③ 生命を維持する徴候の観察	2		
21. ④ 介護福祉士に必要な薬の知識 ⑤ 介護現場での注意点 ⑥ 介護福祉職が行えること	2		

22. まとめ	2		
23. 確認試験・振り返り	2	○	○
24. 第3章 移動に関連したことからだのしくみ 第1節 移動のしくみ 1 なぜ移動をするのか 2 基本的な姿勢 3 ボディメカニクス	2		
25. 4 移動に関連したところとからだのしくみ 5 移動に関連したからだのしくみ	2		
26. 第2節 心身の機能低下が移動に及ぼす影響 1 精神機能の低下が移動に及ぼす影響 2 身体機能の低下が移動に及ぼす影響 第3節 変化の気づきと対応 1 移動での観察ポイント 2 移動での医療職との連携のポイント	2		
27. 第4章 身じたくに関連したところとからだのしくみ 第1節 身じたくのしくみ 1 なぜ身じたくを整えるのか 2 身じたくに関連したところのしくみ 3 身じたくに関連したからだのしくみ	2		
28. //	2		
29. 第2節 心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響 1 精神機能の低下が身じたくに及ぼす影響 2 身体機能の低下が身じたくに及ぼす影響	2		
30. 第3節 変化の気づきと対応 1 身じたくでの観察のポイント 2 身じたくでの医療職との連携のポイント	2		
31. まとめ	2		
32. 確認テスト・振り返り	2	○	○
33. 第5章 食事に関連したところとからだのしくみ 第1節 食事のしくみ	2		
34. 第2節 心身の機能低下が食事に及ぼす影響	2		
35. 第3節 変化の気づきと対応	2		
36. まとめ	2		
37. 確認テスト・振り返り	2		
38. 第6章 入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ 第1節 入浴・清潔保持のしくみ 1 なぜ入浴・清潔保持を行うのか 2 入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ 3 入浴・清潔保持に関連したからだのしくみ	2		
39. //	2		
40. 第2節 心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響 1 精神機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響 2 身体機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響	2		
41. 第3節 変化の気づきと対応 1 入浴が身体に及ぼす負担 2 入浴・清潔保持での観察ポイント 3 入浴・清潔保持での医療職との連携のポイント	2		
42. //	2		
43. まとめ	2		
44. 総まとめ	2		
45. 定期試験・振り返り	2	○	○
その他		関連科目	
※実務経験のある教員が担当する科目である。			

シラバス (授業概要)		年度	2025 年度		
		科目コード	F1-K36		
時間数は45分換算					
授業科目名				学科・コース	
Understanding development and aging I 発達と老化の理解 I				国際介護福祉科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	通年	必修	30	2	佐藤 美哉子
授業の目的					
・人間の成長と発達の基礎的知識、人間の発達段階と発達課題、老年期の特徴と発達課題について知識を習得する。					
授業の到達目標					
・人間の成長と発達の基礎的知識、人間の発達段階と発達課題、老年期の特徴と発達課題について理解・考察することができる。					
授業方式					
対面	☐	ライブ型	☐	オンデマンド型	
授業形態					
講義	☐	演習	☐	実験・実習・実技	
アクティブ・ラーニング					
グループワーク	☐	フィールドワーク		プレゼンテーション	
ロールプレイ	☐	PBL	☐	反転授業	
対話・議論型授業	☐	調査学習		教えあい授業	☐
その他					
成績評価の方法					
評価項目		評価観点			配点計
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	
定期試験		60%	%	%	60%
出席率		%	%	20%	20%
授業態度		%	%	20%	20%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
使用テキスト・教材					
『最新介護福祉士養成講座 発達と老化の理解』中央法規 『わかる！受かる！介護福祉士国家試験 2026 合格テキスト』中央法規 『見て覚える 介護福祉士国試ナビ 2026』中央法規 『書いて覚える 介護福祉士国家試験国試ドリル 2026』中央法規					
授業内容・授業計画					
内 容			時間	課題	評価

シラバス (授業概要)		年度	2025 年度		
		科目コード	F1-K38		
時間数は45分換算					
授業科目名				学科・コース	
Understanding dementia I 認知症の理解 I				国際介護福祉科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	通年	必修	30	2	佐藤 美哉子
授業の目的					
・認知症の基礎的理解、認知症の症状・診断・治療・予防、障害をかかえて生きることへの支援について知識を習得する。					
授業の到達目標					
・認知症の基礎的理解、認知症の症状・診断・治療・予防、障害をかかえて生きることへの支援について理解・考察することができる。					
授業方式					
対面	☐	ライブ型	☐	オンデマンド型	
授業形態					
講義	☐	演習		実験・実習・実技	
アクティブ・ラーニング					
グループワーク	☐	フィールドワーク		プレゼンテーション	
ロールプレイ	☐	PBL	☐	反転授業	
対話・議論型授業	☐	調査学習		教えあい授業	☐
その他					
成績評価の方法					
評価項目		評価観点			配点計
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	
定期試験		60%	%	%	60%
出席率		%	%	20%	20%
授業態度		%	%	20%	20%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
使用テキスト・教材					
『最新介護福祉士養成講座 認知症の理解』中央法規 『わかる！受かる！介護福祉士国家試験 2026 合格テキスト』中央法規 『見て覚える 介護福祉士国試ナビ 2026』中央法規 『書いて覚える 介護福祉士国家試験国試ドリル 2026』中央法規					

2025年度

国際介護福祉科

2年生

授業計画（シラバス）

シラバス (授業概要)		年度	2025年度		
		科目コード	F2-K07		
時間数は45分換算					
授業科目名				学科・コース	
Relationships and Communication II 人間関係とコミュニケーションII				国際介護福祉科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	通年	必修	30	2	森岡 光秀 堰口 千春 落合 史乃
授業の目的					
・介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を養う学習とする。					
授業の到達目標					
・介護実践をマネジメントするために必要な組織の運営管理、人材の育成や活用等の人材管理、それらに必要なリーダーシップ・フォロワーシップ等、チーム運営の基本を理解する。					
授業方式					
対面	☐	ライブ型	☐	オンデマンド型	
授業形態					
講義	☐	演習	☐	実験・実習・実技	
アクティブ・ラーニング					
グループワーク	☐	フィールドワーク		プレゼンテーション	
ロールプレイ	☐	PBL	☐	反転授業	
対話・議論型授業	☐	調査学習		教えあい授業	☐
その他					
成績評価の方法					
評価項目		評価観点			配点計
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	
定期試験		60%	%	%	60%
出席率		%	%	20%	20%
授業態度		%	%	20%	20%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
使用テキスト・教材					
『最新介護福祉士養成講座1 人間の理解』中央法規 『わかる！受かる！介護福祉士国家試験 2025 合格テキスト』中央法規 『見て覚える 介護福祉士国試ナビ 2025 』中央法規					

シラバス (授業概要)		年度	2025年度		
		科目コード	F2-K08		
時間数は45分換算					
授業科目名				学科・コース	
Understanding of society 社会の理解				国際介護福祉科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	通年	必修	60	4	森岡 光秀 堰口 千春 落合 史乃 栗田 高典
授業の目的					
<p>1. 個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉えることができる。</p> <p>2. 対象者の生活の場として地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を身に付けることができる。</p> <p>3. 日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて理解できる。</p> <p>4. 高齢者福祉、障害者福祉及び権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から、基礎的な知識を身に付けることができる。</p>					
授業の到達目標					
<p>1. 個人・家族・地域・社会のしくみと、地域における生活の構造について学び、生活と社会の関わりや自助・互助・共助・公助の展開について理解できる。</p> <p>2. 地域共生社会や地域包括システムの基本的な考え方としくみ、その実現のための制度・施策を理解できる。</p> <p>3. 社会保障制度の基本的な考え方としくみを理解するとともに、社会保障の現状を課題を捉えることができる。</p> <p>4. 高齢者福祉制度の基本的な考え方としくみ、介護保険制度の内容を理解し、高齢者福祉の現状を課題を捉えることができる。</p> <p>5. 障害者福祉制度の基本的な考え方としくみ、障害者総合支援法の内容を理解し、障害者福祉の現状と課題を捉えることができる。</p> <p>6. 人間の尊厳と自立に関わる権利擁護や個人情報保護等、介護実践に関わる制度・施策の基本的な考え方と仕組みが理解できる。</p>					
授業方式					
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型	
授業形態					
講義	○	演習		実験・実習・実技	
アクティブ・ラーニング					
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション	
ロールプレイ		PBL	○	反転授業	
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業	○
その他					
成績評価の方法					
評価項目	評価観点	知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
定期試験		60%	%	%	60%
出席率		%	%	20%	20%
授業態度		%	%	20%	20%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
		%	%	%	%

使用テキスト・教材			
『最新介護福祉士養成講座 社会の理解』中央法規 『わかる！受かる！介護福祉士国家試験 2025 合格テキスト』中央法規 『見て覚える 介護福祉士国試ナビ 2025』中央法規			
授業内容・授業計画			
内 容	時間	課題 試験	評価
1. 第1章 社会と生活のしくみ 第1節 生活の基本機能	2		
2. 第2節 ライフサイクルの変化	2		
3. 第3節 家族の機能と役割	2		
4. 第4節 社会・組織の機能と役割	2		
5. 第5節 地域・地域社会	2		
6. 第6節 地域社会における生活支援	2		
7. 第2章 地域共生社会の実現に向けた制度や施策 第1節 地域福祉の発展	2		
8. 第2節 地域共生社会	2		
9. 第3節 地域包括ケア	2		
10. 第3章 社会保障制度 第1節 社会保障の基本的な考え方	2		
11. 第2節 日本の社会保障制度の発達	2		
12. 第3節 日本の社会保障制度のしくみ	2		
13. 第4節 現代社会と社会保障制度	2		
14. まとめ	2		
15. 定期試験と振り返り	2	○	○
16. 第4章 高齢者保健福祉と介護保険制度 第1節 高齢者保健福祉の動向	2		
17. 第2節 高齢者保健福祉に関連する法体系	2		
18. 第3節 介護保険制度	2		
19. "			
20. 第5章 障害者保健福祉と障害者総合支援制度 第1節 障害者保健福祉の動向	2		
21. 第2節 障害者の定義	2		
22. 第3節 障害者保健福祉に関する制度	2		
23. 第4節 障害者総合支援法	2		
24. "			
25. 第6章 介護実践に関連する諸制度 第1節 個人の権利を守る制度	2		
26. 第2節 保健医療に関連する制度	2		
27. 第3節 貧困と生活困窮に関する制度	2		
28. 第4節 地域生活を支援する制度	2		
29. まとめ	2		
30. 定期試験と振り返り	2	○	○
その他	関連科目		

※実務経験のある教員が担当する科目である。

--	--

シラバス (授業概要)		年度	2025年度		
		科目コード	F2-K10		
時間数は45分換算					
授業科目名				学科・コース	
Humans and society II 人間と社会 II				国際介護福祉科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	通年	必修	60	2	森岡 光秀 堰口 千春 落合 史乃 青嶋 晶子
授業の目的					
・福祉に関する基本的な知識と技術を獲得し、社会のしくみ、人権と権利擁護、社会保障制度を理解するための能力を養う学習とする。					
授業の到達目標					
・福祉に関する基本的な知識と技術を獲得するために必要な社会のしくみ、人権と権利擁護、社会保障制度の基本を理解する。					
授業方式					
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型	
授業形態					
講義		演習	○	実験・実習・実技	
アクティブ・ラーニング					
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション	○
ロールプレイ	○	PBL	○	反転授業	
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業	○
その他					
成績評価の方法					
評価項目		評価観点			配点計
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	
定期試験		60%	%	%	60%
出席率		%	%	20%	20%
授業態度		%	%	20%	20%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
使用テキスト・教材					
『わかる！受かる！介護福祉士国家試験 2025 合格テキスト』中央法規 『見て覚える 介護福祉士国試ナビ 2025』中央法規					

授業内容・授業計画			
内 容	時間	課題 試験	評価
1. 第1章人間と社会 第1節 社会のしくみ 1 個人・家族	2		
2. 2 地域社会・行政組織	2		
3. 第2節 人権と権利擁護 1 人間の尊厳と人権	2		
4. 2 権利擁護	2		
5. 3 虐待	2		
6. まとめ			
7. 第3節 社会保障制度 1 社会保障制度の概要	2		
8. "			
9. " 2 医療保険	2		
10. "			
11. 3 年金保険	2		
12. "			
13. 4 労働関係	2		
14. "			
15. 5 介護保険	2		
16. "			
17. "			
18. 6 社会福祉法関連	2		
19. "			
20. 7 生活保護・社会手当	2		
21. "			
22. 8 高齢者福祉	2		
23. "			
24. 9 障害者福祉	2		
25.			
26. 10 障害者総合支援法	2		
27. "	2		
28. "	2		
29. まとめ	2		
30. 定期試験・振り返り	2	○	○
その他	関連科目		

シラバス (授業概要)		年度	2025 年度		
		科目コード	F2-K12		
時間数は45分換算					
授業科目名				学科・コース	
Basics of careⅢ 介護の基本Ⅲ				国際介護福祉科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	通年	必修	60	4	森岡 光秀 堰口 千春 落合 史乃
授業の目的					
・介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。					
授業の到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・多職種協働による介護を実践するために、保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性や役割と機能を理解する。 ・介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解するとともに、安全の確保のための基礎的な知識や事故への対応を理解する。 ・介護従事者自身が心身ともに健康に、介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について理解する。 					
授業方式					
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型	
授業形態					
講義	○	演習		実験・実習・実技	
アクティブ・ラーニング					
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション	
ロールプレイ	○	PBL	○	反転授業	
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業	○
その他					
成績評価の方法					
評価観点		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
評価項目					
定期試験		60%	%	%	60%
出席率		%	%	20%	20%
授業態度		%	%	20%	20%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
使用テキスト・教材					
『わかる！受かる！介護福祉士国家試験 2025 合格テキスト』中央法規 『見て覚える 介護福祉士国試ナビ 2025』中央法規 『最新介護福祉士養成講座 第2版 介護の基本Ⅰ Ⅱ』中央法規					
授業内容・授業計画					
内 容			時間	課題	評価

		試験
1. 介護における安全の確保とリスクマネジメント (1) 介護における安全の確保 リスクマネジメントとは何か①	2	
2. 介護における安全の確保とリスクマネジメント (2) リスクマネジメントとは何か②	2	
3. 介護における安全の確保とリスクマネジメント (3) 感染症対策①	2	
4. 介護における安全の確保とリスクマネジメント (4) 感染症対策② 【演習】手袋の外し方、ガウンの装着方法の理解	2	
5. 協働する多職種の機能と役割 (1) 多職種連携・協働の必要性	2	
6. 協働する多職種の機能と役割 (2) 多職種連携・協働に求められる基本的な能力	2	
7. 協働する多職種の機能と役割 (3) 保健・医療・福祉職の役割と機能① (社会福祉士、精神保健福祉士、医師・歯科医師、歯科衛生士)	2	
8. 協働する多職種の機能と役割 (4) 保健・医療・福祉職の役割と機能② (保健師・助産師・看護師)	2	
9. 協働する多職種の機能と役割 (5) 保健・医療・福祉職の役割と機能③ (介護支援専門員、サービス提供責任者、管理栄養士、栄養士)	2	
10. 協働する多職種の機能と役割 (6) 保健・医療・福祉職の役割と機能④ (薬剤師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士)	2	
11. 協働する多職種の機能と役割 (7) 保健・医療・福祉職の役割と機能⑤ (公認心理師、技師装具士、福祉用具専門相談員)	2	
12. 協働する多職種の機能と役割 (8) 多職種連携・協働の実際① 専門職連携実践とは (IPW) とは	2	
13. 協働する多職種の機能と役割 (9) 多職種連携・協働の実際② 有料老人ホームに入所している A さんの事例	2	
14. 協働する多職種の機能と役割 (10) 多職種連携・協働の実際③ 特別養護老人ホームに入所している B さんの事例	2	
15. 介護従事者の安全 (1) 関連法規の理解① 労働基準法	2	
16. 介護従事者の安全 (2) 関連法規の理解② 労働安全衛生法	2	
17. 介護従事者の安全 (3) 関連法規の理解③ 労働者災害補償保険法	2	
18. 介護従事者の安全 (4) ストレスとは何か	2	
19. 介護従事者の安全 (5) こころの健康管理①	2	
20. 介護従事者の安全 (6) こころの健康管理②	2	
21. 介護従事者の安全 (7) 身体の健康管理①	2	
22. 介護従事者の安全 (8) 身体の健康管理①	2	
23. 介護従事者の安全 (9) 身体の健康管理②	2	
24. 介護従事者の安全 (10) 【演習】介護従事者に多い、職業病とは	2	
25. 介護従事者の安全 (11) ハインリッヒの法則とヒヤリハットとは	2	

シラバス (授業概要)		年度	2025 年度			
		科目コード	F2-K14			
時間数は45分換算						
授業科目名				学科・コース		
Communication skill II コミュニケーション技術II				国際介護福祉科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	通年	必修	30	1	高木 誠一 森岡 光秀 堰口 千春 落合 史乃	
授業の目的						
・対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う学習とする。						
授業の到達目標						
・家族の置かれている状況・場面を理解し、家族への支援やパートナーシップを構築するためのコミュニケーションの基本的な技術を習得する。 ・障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的な技術を習得する。 ・情報を適切にまとめ、発言するために、介護実践における情報の共有化の意義を理解し、その具体的な方法や情報の管理について理解する。						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ	○	PBL	○	反転授業		
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点	知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
定期試験			60%	%	%	60%
出席率			%	%	20%	20%
授業態度			%	%	20%	20%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
使用テキスト・教材						
『最新介護福祉士養成講座 コミュニケーション技術』中央法規 『わかる！受かる！介護福祉士国家試験 2025 合格テキスト』中央法規 『見て覚える 介護福祉士国試ナビ 2025』中央法規						

シラバス (授業概要)		年度	2025 年度			
		科目コード	F2-K16			
時間数は45分換算						
授業科目名				学科・コース		
Life support skillⅢ 生活支援技術Ⅲ				国際介護福祉科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	通年	必修	30	1	森岡 光秀 堰口 千春 落合 史乃 鈴木 加絵 益田 八千代	
授業の目的						
・尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた会議実技を行うための知識・技術を習得する学習とする。						
授業の到達目標						
・住まいの多様性を理解し、生活の豊かさや自立支援のための居住環境の整備について理解する ・個々の状態に応じた家事を自立的に行うことを支援するための、知識・技術を習得する。 ・終末期の経過に沿った支援や、チームケアの実践について理解する ・対象者の能力に応じた福祉用具を選択・活用する知識・技術を習得する						
授業方式						
対面	○	ライブ型		オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習	○	実験・実習・実技	○	
アクティブ・ラーニング						
グループワーク		フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		PBL		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業		
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点	知識 技能	思考 判断 表現	関心 意欲 態度	配点計
定期試験			60%	%	%	60%
出席率			%	%	20%	20%
授業態度			%	%	20%	20%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
使用テキスト・教材						
『わかる！受かる！介護福祉士国家試験 2025 合格テキスト』中央法規 『見て覚える 介護福祉士国試ナビ 2025』中央法規 『書いて覚える 介護福祉士国家試験国試ドリル 2025』中央法規 『最新介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ』中央法規 『最新介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ』中央法規 『最新介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅲ』中央法規						

その他	関連科目

シラバス (授業概要)		年度	2025 年度			
		科目コード	F2-K18			
時間数は45分換算						
授業科目名				学科・コース		
Process of care II 介護過程 II				国際介護福祉科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	通年	必修	120	4	森岡 光秀 堰口 千春 落合 史乃	
授業の目的						
・対象者の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、目標達成を目指した計画立案、根拠に基づく介護実践ができるようになるための思考過程を習得する学習とする。						
授業の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・ I C F の視点から、対象者の生活課題を理解できる ・ 対象者のかかえる生活課題が改善できる介護計画が立案できる ・ 協働する他の専門職のケア計画と個別介護計画の関係性、チームとして介護過程を展開することの意義や方法を理解する。 ・ 個別の事例を通じて、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開につながる。 						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習	○	実験・実習・実技	○	
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		P B L	○	反転授業		
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点	知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
定期試験			30%	%	%	30%
随時課題			15%	15%	%	30%
出席率			%	%	15%	15%
授業態度			%	%	15%	15%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
使用テキスト・教材						
『わかる！受かる！介護福祉士国家試験 2025 合格テキスト』中央法規 『見て覚える 介護福祉士国試ナビ 2025』中央法規 『最新介護福祉士養成講座 9 第 2 版 介護過程』中央法規						
授業内容・授業計画						

内 容	時間	課題 試験	評価
1 オリエンテーション、実習Ⅰケース対象利用者の振り返り	2		
2 実習Ⅰケース対象利用者振り返り	2		
3 実習Ⅰケース対象利用者の個別支援計画の立案	2		
4 "	2		
5 "	2		
6 "	2		
7 "	2		
8 "	2		
9 "	2		
10 "	2		
11 ケース対象利用者の個別支援計画の発表（グループワーク）	2	○	○
12 "	2	○	○
13 "	2	○	○
14 実施・評価に必要な科学的な根拠とその視点	2		
15 実習Ⅱケース対象者 情報収集とその情報をもつ意味	2		
16 実習Ⅱケース対象者 アセスメント	2		
17 発表会オリエンテーションと実習Ⅱケース対象者の振り返り	2		
18 実習Ⅱケース対象者の振り返り	2		
19 実習Ⅱ発表会準備	2		
20 "	2		
21 "	2		
22 "	2		
23 "	2		
24 "	2		
25 "	2		
26 "	2		
27 "	2		
28 "	2		
29 "	2		
30 "	2		
31 "	2		
32 "	2		
33 "	2		
34 "	2		
35 "	2		
36 "	2		
37 実習Ⅱ事例検討発表会	2	○	○
38 "	2	○	○
39 事例検討①認知症グループホームに入所する心疾患のある女性	2		
40 "	2		
41 "	2		
42 "	2		
43 "	2		
44 "	2	○	○
45 事例検討② 障害者支援施設に入所する男性	2		
46 "	2		
47 "	2		
48 "	2		
49 "	2		
50 "	2	○	○

51	介護過程とチームアプローチ	2		
52	事例検討③ 介護老人保健施設に入所する女性	2		
53	〃	2		
54	〃	2		
55	〃	2	○	○
56	事例④ グループホームに入所している統合失調症の女性	2		
57	〃	2		
58	〃	2		
59	〃	2	○	○
60	定期試験	2	○	○
その他		関連科目		

シラバス (授業概要)		年度	2025年度		
		科目コード	F2-K20		
時間数は45分換算					
授業科目名				学科・コース	
Comprehensive Care Seminar II 介護総合演習 II				国際介護福祉科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	通年	必修	60	2	森岡 光秀 堰口 千春 落合 史乃
授業の目的					
・介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。					
授業の到達目標					
・実習の教育効果を上げるため、事前に実習施設についての理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践につながる。実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結び付けて統合、深化させるとともに、自己の課題を明確にし専門職としての態度を養う。 ・質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義とその方法を理解する。					
授業方式					
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型	
授業形態					
講義	○	演習	○	実験・実習・実技	○
アクティブ・ラーニング					
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション	
ロールプレイ	○	PBL	○	反転授業	
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業	○
その他					
成績評価の方法					
評価観点		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
評価項目					
課題提出		20%	25%	25%	70%
出席率		%	%	15%	15%
授業態度		%	%	15%	15%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
		%	%	%	%
使用テキスト・教材					
『最新介護福祉士養成講座 介護総合演習・介護実習』中央法規					

授業内容・授業計画			
内 容	時間	課題 試験	評価
1. 知識と技術の統合 実習前準備 (1) 実習の意義と目的	2		
2. 知識と技術の統合 実習前準備 (2) 施設理解	2		
3. 知識と技術の統合 実習前準備 (3) 個人票の書き方と作成	2		
4. 知識と技術の統合 実習前準備 (4) 目標や行動計画の明確化	2		
5. 知識と技術の統合 実習前準備 (5) 実習関連の記録物の確認及び作成	2		
6. 知識と技術の統合 実習前準備 (6) オリエンテーション等	2		
7. 知識と技術の統合 実習前準備 (7) 目標や行動計画の検証	2		
8. 知識と技術の統合 実習前準備 (8) 目標や行動計画の検証	2		
9. 介護実践の科学的研究 実習中指導 (1) 帰校日による確認・指導	2		
10. 介護実践の科学的研究 実習中指導 (2) 帰校日による確認・指導	2		
11. 介護実践の科学的研究 実習中指導 (3) 帰校日による確認・指導	2		
12. 介護実践の科学的研究 実習中指導 (4) 帰校日による確認・指導	2		
13. 介護実践の科学的研究 実習中指導 (5) 帰校日による確認・指導	2		
14. 介護実践の科学的研究 実習後指導 (1) 記録等に関する確認・指導・報告	2		
15. 介護実践の科学的研究 実習後指導 (2) 記録等に関する確認・指導・報告	2		
16. 介護実践の科学的研究 実習後指導 (3) 記録等に関する確認・指導・報告	2		
17. 知識と技術の統合 実習前準備 (1) 実習の意義と目的	2		
18. 知識と技術の統合 実習前準備 (2) 施設理解	2		
19. 知識と技術の統合 実習前準備 (3) 個人票の書き方と作成	2		
20. 知識と技術の統合 実習前準備 (4) 目標や行動計画の明確化	2		
21. 知識と技術の統合 実習前準備 (5) 実習関連の記録物の 確認及び作成	2		
22. 知識と技術の統合 実習前準備 (6) オリエンテーション等	2		
23. 知識と技術の統合 実習前準備 (7) 目標や行動計画の検証	2		
24. 知識と技術の統合 実習前準備 (8) 目標や行動計画の検証	2		
25. 介護実践の科学的研究 実習中指導 (1) 帰校日による確認・指導	2		
26. 介護実践の科学的研究 実習中指導 (2) 帰校日による確認・指導	2		
27. 介護実践の科学的研究 実習後指導 (1) 記録等に関する確認・指導・報告	2		
28. 介護実践の科学的研究 実習後指導 (2) 記録等に関する確認・指導・報告	2		
29. 介護実践の科学的研究 実習後指導 (3) 記録等に関する確認・指導・報告	2		
30. 介護実践の科学的研究 実習後指導 (4) 記録等に関する確認・指導・報告	2		
その他	関連科目		

シラバス (授業概要)		年度	2025 年度			
		科目コード	F2-K22			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Care practice II 介護実習 II					国際介護福祉科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	通年	必修	300	10	森岡 光秀 堰口 千春 佐藤 美哉子 落合 史乃	
授業の目的						
<ul style="list-style-type: none"> ・地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。 ・本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。 						
授業の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・介護過程の展開を通して対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践的に学ぶ。 ・多職種との協働の中で、介護福祉士としての役割を理解するとともに、サービス担当者会議やケースカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアを体験的に学ぶ。 ・対象者の生活と地域との関わりや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学ぶ。 						
授業方式						
対面	○	ライブ型		オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習		実験・実習・実技	○	
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション	○	
ロールプレイ		PBL		反転授業		
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点	知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
目標設定・課題への取り組み			30%	20%	10%	60%
学習態度・意欲・内省			%	20%	20%	40%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
使用テキスト・教材						
『最新介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習』中央法規						

授業内容・授業計画			
内 容	時間	課題 試験	評価
「実習施設・事業等（Ⅱ）」 施設実習：20 日間（200 時間：実時間 150 時間）			
個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった一連の介護過程のすべてを継続的に実践することに重点を置いた実習。			
*介護実習Ⅱは、介護過程を展開し、利用者理解及び個別ケアの在り方を学ぶ実習。			
1 週目：利用者を 1 人受け持たせていただき、情報収集をする。			
2 週目：利用者の情報収集・分析をする。			
3 週目：利用者の情報収集・アセスメント・計画立案。			
4 週目：利用者の介護計画の立案・確認・実施			
5 週目：介護計画の実施・評価			
6 週目：介護計画の実施・評価（再）まとめ			
「実習施設・事業等（Ⅰ）」 居宅（通所サービス）実習：10 日間 （100 時間：実時間 75 時間）			
利用者の生活の場である多様な介護現場において、利用者理解を中心とし、これに併せて、利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践、多職種協働の実践、介護実習の確認等を行うことに重点に置いた実習。			
1 週目：利用者の様々な暮らしの場を理解する。			
2 週目：さまざまな利用者に出会い、願いや思いにふれる。			
3 週目：利用者の家族ともコミュニケーションを取る。			
実習において、1 週間に 1 度帰校日を設け実習の振り返りと指導を受ける。		○	○
実習期間中は、実習日誌（学校指定の書式）の記録を行う		○	△
その他	関連科目		

シラバス (授業概要)		年度	2025年度			
		科目コード	F2-K24			
時間数は45分換算						
授業科目名				学科・コース		
How mind and work II こころとからだのしくみII				国際介護福祉科2年		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	通年	必修	90	6	佐藤 美哉子	
授業の目的						
・学生が介護を必要とする人の生活支援を行うために、介護実践の根拠となる人間の心理・人体の構造や機能を理解するために基礎的な知識を習得する学習とする。						
授業の到達目標						
・介護実践に必要な観察力、判断力の基盤となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識を学習し介護の科目で知識を生かすことができる。						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ	○	PBL	○	反転授業		
対話・議論型授業	○	調査学習	○	教えあい授業	○	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点	知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
定期試験			60%	%	%	60%
出席率			%	%	20%	20%
授業態度			%	%	20%	20%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
使用テキスト・教材						
『最新介護福祉士養成講座 こころとからだのしくみ』中央法規 『わかる！受かる！介護福祉士国家試験 2025 合格テキスト』中央法規 『見て覚える 介護福祉士国試ナビ 2025』中央法規 『書いて覚える 介護福祉士国家試験国試ドリル 2025』中央法規						

授業内容・授業計画			
内 容	時間	課題 試験	評価
1. 序章 「健康」とは何か 1 健康の定義 2 「健康」づくり 3 健康観 4 人はなぜ病気になるのか	2		
2. 第1章 こころのしくみを理解する 第1節 人間の欲求とは 1 基本的欲求 2 社会的欲求 3 自己実現とは	2		
3. 第2節 自己実現と尊厳 1 自己概念に影響する要因 2 自立への意欲と自己概念 3 自己実現と尊厳、生きがい 4 国際的な取り組み	2		
4. 第3節 こころのしくみの基礎 1 「こころ」とは何か 2 脳のしくみ 3 認知のしくみ 4 学習・記憶・思考のしくみ	2		
5. 5 感情・情動のしくみ 6 意欲・動機づけのしくみ	2		
6. 7 適応のしくみ	2		
7. まとめ	2		
8. 確認テスト 振り返り	2	○	○
9. 第2章 からだのしくみを理解する 第1節 からだのしくみ 1 からだのしくみの理解 ① からだのつくりの理解（身体各部の名称） ② 人体の構造と機能 （1）内臓の名称 （2）骨格の名称 （3）骨格筋の名称	2		
10. ③ 細胞・組織・器官・器官系 （1）細胞 （2）遺伝 （3）脳・神経	2		
11. （4）感覚器	2		
12. （5）呼吸器	2		
13. （6）循環器	2		
14. （7）消化器	2		
15. （8）泌尿器	2		
16. （9）骨・筋肉 （10）骨・関節	2		
17. （11）筋肉 （12）神経系	2		
18. （13）生殖器・内分泌	2		
19. （14）血液・体液・リンパ液	2		
20. 2 生命の維持と恒常性のしくみ ① 生命維持と恒常性のしくみ ② 心身調和 ③ 生命を維持する徴候の観察	2		
21. ④ 介護福祉士に必要な薬の知識 ⑤ 介護現場での注意点 ⑥ 介護福祉職が行えること	2		

22. まとめ	2		
23. 確認試験・振り返り	2	○	○
24. 第7章 排泄に関連したことからだのしくみ 第1節 排泄のしくみ 1 なぜ排泄をするのか	2		
25. 2 排泄に関連したところのしくみ 3 排泄に関連したからだのしくみ	2		
26. 第2節 心身の機能低下が排泄に及ぼす影響 1 精神、判断力の低下が排泄に及ぼす影響	2		
27. 2 身体機能の低下が排泄に及ぼす影響	2		
28. 第3節 変化の気づきと対応 1 排泄での観察のポイント 2 排泄での医療職との連携のポイント	2		
29. まとめ	2		
30. 確認テスト 振り返り	2	○	○
31. 第8章 休息・睡眠に関連したことからだのしくみ 第1節 休息・睡眠のしくみ 1 なぜ睡眠をとるのか ① 休息と睡眠 ② 睡眠と関連するところとからだのしくみ	2		
32. 2 睡眠のしくみ ① 睡眠時間 ② 睡眠のしくみ 3 睡眠の質を高める ① 睡眠の質を高める環境 ② 睡眠の質を高める生活習慣	2		
33. 第2節 心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響 1 休息・睡眠に影響を及ぼす心身機能の低下	2		
34. 2 睡眠障害 3 睡眠が及ぼす影響	2		
35. 第3節 変化に気づくためのポイント 1 睡眠での観察ポイント 2 睡眠での医療職との連携ポイント 3 緊急対応が必要な例	2		
36. まとめ	2		
37. 確認テスト・振り返り	2	○	○
38. 第9章 人生の最終段階のケアに関連したことからだのしくみ 第1節 人生の最終段階に関する「死」のとりえ方	2		
39. 第2節 「死」に対するところの理解	2		
40. 第3節 終末期から危篤状態、死後のからだの理解	2		
41. //	2		
42. 第4節 終末期における医療職との連携	2		
43. 国家試験 オリエンテーション	2		
44. まとめ	2		
45. 定期試験と振り返り	2	○	○
その他		関連科目	
“			

シラバス (授業概要)		年度	2025年度			
		科目コード	F2-K26			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Understnding development and aging II 発達と老化の理解II					国際介護福祉科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	前期	必修	30	2	佐藤 美哉子	
授業の目的						
・学生が人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する学習とする。						
授業の到達目標						
・人間の成長と発達の基本的な考え方を踏まえ、ライフサイクルの各期（乳幼児期・学童期・思春期・青年期・成人期・老年期）における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題及び特徴的な疾病について学習する。 ・老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や、高齢者に多くみられる疾病と生活への影響、健康の維持・増進を含めた生活を支援するための基礎的な知識を得る。						
授業方式						
対面	☐	ライブ型	☐	オンデマンド型		
授業形態						
講義	☐	演習	☐	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	☐	フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ	☐	PBL	☐	反転授業		
対話・議論型授業	☐	調査学習		教えあい授業	☐	
その他						
成績評価の方法						
評価観点		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計	
評価項目						
定期試験		60%	%	%	60%	
出席率		%	%	20%	20%	
授業態度		%	%	20%	20%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
使用テキスト・教材						
『最新介護福祉士養成講座 発達と老化の理解』中央法規 『わかる！受かる！介護福祉士国家試験 2025 合格テキスト』中央法規 『見て覚える 介護福祉士国試ナビ 2025』中央法規						

その他	関連科目

シラバス (授業概要)		年度	2025 年度			
		科目コード	F2-K28			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Understnding dement II 認知症の理解 II					国際介護福祉科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	前期	必修	30	2	佐藤 美哉子	
授業の目的						
・学生が認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得し、認知症の人を中心に捉え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するために基礎的な知識を習得する。						
授業の到達目標						
・認知症の人の生活及び家族や社会との関わりへの影響を理解し、その人の特性を踏まえたアセスメントを行い、本人主体の理念に基づいた認知症介護に生かすことができる。 ・認知症の人の生活を地域で支えるサポート体制や、多職種連携・協働による支援の基礎的な知識を習得し実践につなげることができる。 ・認知症の人を支える家族の課題について理解し、家族の受容段階や介護力に応じた支援につなげることができる。”						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ	○	PBL	○	反転授業		
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点			配点計	
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度		
定期試験		60%	%	%	60%	
出席率		%	%	20%	20%	
授業態度		%	%	20%	20%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
使用テキスト・教材						
『最新介護福祉士養成講座 認知症の理解』中央法規 『わかる！受かる！介護福祉士国家試験 2025 合格テキスト』中央法規 『見て覚える 介護福祉士国試ナビ 2025』中央法規						

		⋮
		⋮
その他	関連科目	

シラバス (授業概要)		年度	2025年度			
		科目コード	F2-K30			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Understanding failures II 障害の理解 II					国際介護福祉科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	後期	必修	30	2	佐藤 美哉子	
授業の目的						
<ul style="list-style-type: none"> ・学生が障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を取得する学習とする。 						
授業の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・医学的・心理的側面から、障害による心身への影響や心理的な変化を考えることができる。 ・障害のある人のライフステージや障害の特性を踏まえ、機能の変化が生活に及ぼす影響を理解し、QOL を高める支援につながる。 ・障害のある人を地域で支えるためのサポート体制や、多職種連携・協働による支援の基礎的な知識を習得することができる。 ・障害のある人を支える家族の課題について理解し、家族の受容段階や介護力に応じた支援につながる。 						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習		実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ	○	PBL	○	反転授業		
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点			配点計	
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度		
定期試験		60%	%	%	60%	
出席率		%	%	20%	20%	
授業態度		%	%	20%	20%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
使用テキスト・教材						
『最新介護福祉士養成講座 障害の理解』中央法規 『わかる！受かる！介護福祉士国家試験 2025 合格テキスト』中央法規 『見て覚える 介護福祉士国試ナビ 2025』中央法規						

シラバス (授業概要)		年度	2025 年度			
		科目コード	F2-K31			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Medical care 医療的ケア					国際介護福祉科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	後期	必修	90	3	佐藤 美哉子 佐野 実幸	
授業の目的						
<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケアの実施の基礎の修得 ・喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）の修得・経管栄養（基礎的知識・実施手順）の取得 ・演習 ア 喀痰吸引：口腔5回以上 鼻腔5回以上 気管カニューレ5回以上 イ 経管栄養：胃ろう又は腸ろう5回以上 経鼻経管栄養5回以上 * 救急蘇生法演習1回以上” 						
授業の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケアの実施に関する制度の概要及び医療的ケアと関連づけた「個人の尊厳と自立」、「医療的ケアの倫理上の留意点」、「医療的ケアを実施するための感染予防」、「安全管理体制」等についての基礎的な知識を習得することができる。 ・喀痰吸引について根拠に基づき、基礎的な知識、実施手順方法を理解し手技が実施できる。 ・経管栄養について根拠に基づき、基礎的な知識、実施手順方法を理解し手技が実施できる。 ・安全な喀痰吸引等の実施のため、確実な手技を習得できる。 						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ	○	PBL	○	反転授業		
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点			配点計	
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度		
定期試験		30%	%	%	30%	
技術試験		30%	%	%	30%	
出席率		%	%	20%	20%	
授業態度		%	%	20%	20%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
		%	%	%	%	
使用テキスト・教材						
『最新介護福祉士養成講座 医療的ケア』中央法規						
『わかる！受かる！介護福祉士国家試験 2025 合格テキスト』中央法規						
『見て覚える 介護福祉士国試ナビ 2025』中央法規						

授業内容・授業計画			
内 容	時間	課題 試験	評価
1. 第1章 医療的ケア実施の基礎 第1節 医療的ケア 1 医療的ケアとは 2 医行為について 3 喀痰吸引等制度	2		
2. 第1章 医療的ケア実施の基礎 第1節 医療的ケア 4 医療的ケアと喀痰吸引等の背景 5 その他の制度	2		
3. 第1章 医療的ケア実施の基礎 第1節 医療的ケア 演習 1-1 医行為 演習 1-2 介護福祉職等が喀痰吸引等を実施するための要件	2		
4. 第1章 医療的ケア実施の基礎 第2節 安全な療養生活 1 喀痰吸引や経管栄養の安全な実施 演習 1-3「喀痰吸引」や「経管栄養」の安全な実施 演習 1-4 リスクマネジメント	2		
5. 第1章 医療的ケア実施の基礎 第2節 安全な療養生活 2 救急蘇生 第4章 演習 第3節 救急蘇生法の手引き デモストレーション	2		
6. 第1章 医療的ケアの実施の基礎 第3節 清潔保持と感染予防 1 感染予防 2 介護福祉職の感染予防	2		
7. 第1章 医療的ケアの実施の基礎 第3節 清潔保持と感染予防 3 療養環境の清潔、消毒法 4 除菌と滅菌	2		
8. 第1章 医療的ケアの実施の基礎 第4節 健康状態の把握 1 身体・精神の健康 2 健康状態を知る項目 3 急変状態について	2		
9. 第1章 医療的ケアの実施の基礎 第3節 清潔保持と感染予防 第4節 健康状態の把握 演習 1-6 感染予防 演習 1-7 使い捨て手袋やマスク等の使用 演習 1-8 脈拍測定	2		
10. 【まとめ】第1章 医療的ケア実施の基礎	2	○	○
11. 第2章 喀痰吸引 第1節 高齢者及び障害児・者喀痰吸引概要 1 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概要 1 呼吸のしくみとはたらき 2 いつもと違う呼吸状態	2		
12. 第2章 喀痰吸引 第1節 高齢者及び障害児・者喀痰吸引概要 1 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概要 3 喀痰吸引とは 4 人工呼吸器と吸引	2		

13. 第2章 喀痰吸引 第1節 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概要 1 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概要 5 子どもの吸引について 6 呼吸を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意	2		
14. 第2章 喀痰吸引 第1節 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概要 1 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概要 7 呼吸器系の感染と予防 8 喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認 9 急変・事故発生時の対応と事前対策	2		
15. 第2章 喀痰吸引 第1節 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概要 1 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概要 演習 2-1 呼吸のしくみとはたらき、喀痰吸引 演習 2-2 子どもの吸引	2		
16. 第2章 喀痰吸引 第2節 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説 1 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順の解説 1 喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持 2 吸引の技術と留意点	2		
17. 第2章 喀痰吸引 第2節 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説 1 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順の解説 演習 2-3 喀痰吸引の必要物品と消毒法 演習 2-4 利用者の状態観察の注意点	2		
18. 第2章 喀痰吸引 第2節 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説 1 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順の解説 3 喀痰吸引にともなうケア 4 報告および記録 演習 2-5 喀痰吸引前の利用者への説明	2		
19. 第2章 喀痰吸引 第2節 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説 1 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順の解説 第4章 演習 第1節 喀痰吸引のケア実施の手引き 口腔内及び鼻腔内 デモストレーション 演習 2-6 喀痰吸引の実施手順の流れ、ポイントと留意点	2		
20. 第4章 演習 第1節 喀痰吸引のケア実施の手引き 気管カニューレ内部 デモストレーション	2		
21. 【まとめ】第2章 喀痰吸引	2	○	○
22. 第3章 経管栄養 第1節 高齢者および障害児・者の経管栄養概論 1 高齢者および障害児・者の経管栄養概論 1 消火器系のしくみとはたらき 2 消火・吸収とよくある消化器の症状	2		
23. 第3章 経管栄養 第1節 高齢者および障害児・者の経管栄養概論 1 高齢者および障害児・者の経管栄養概論 3 経管栄養とは 4 注入する内容に関する知識	2		
24. 第3章 経管栄養 第1節 高齢者および障害児・者の経管栄養概論 1 高齢者および障害児・者の経管栄養概論 5 経管栄養実施上の留意点 6 こどもの経管栄養について 7 経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意	2		

25. 第3章 経管栄養 第1節 高齢者および障害児・者の経管栄養概論 1 高齢者および障害児・者の経管栄養概論 演習 3-1 経管栄養の種類としくみ 演習 3-2 経管栄養で使用される栄養剤 演習 3-3 子どもの経管栄養における留意点	2		
26. 第3章 経管栄養 第1節 高齢者および障害児・者の経管栄養概論 1 高齢者および障害児・者の経管栄養概論 8 経管栄養に関する感染と予防 9 経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認 10 急変・事故発生時の対応と事前対策	2		
27. 第3章 経管栄養 第1節 高齢者および障害児・者の経管栄養概論 1 高齢者および障害児・者の経管栄養概論 演習 3-4 経管栄養の感染予防策 演習 3-5 経管栄養により生じる危険 演習 3-6 急変・事故発生時の対応と再発防止	2		
28. 第3章 経管栄養 第2節 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説 1 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説 1 経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持 演習 3-7 経管栄養の必要物品	2		
29. 第3章 経管栄養 第2節 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説 1 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説 2 経管栄養の技術と留意点 演習 3-8 経管栄養実施の観察ポイント	2		
30. 第3章 経管栄養 第2節 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説 1 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説 3 経管栄養に必要なケア 4 報告および記録	2		
31. 第3章 経管栄養 第2節 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説 1 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説 演習 3-9 経管栄養の実施 演習 3-10 経管栄養時に起こるリスクと対応例 演習 3-11 経管栄養実施の報告	2		
32. 第4章 演習 第2節 経管栄養のケア実施の手引き 胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養 デモンストレーション	2		
33. 第4章 演習 第2節 経管栄養のケア実施の手引き 経鼻経管栄養 デモンストレーション	2		
34. 【まとめ】第3章 経管栄養	2	○	○
35. 【演習】救急蘇生法	2	○	○
36. 【演習】喀痰吸引①	2	○	○
37. 【演習】喀痰吸引②	2	○	○
38. 【演習】喀痰吸引③	2	○	○
39. 【演習】喀痰吸引④	2	○	○
40. 【演習】喀痰吸引⑤	2	○	○
41. 【演習】(経管栄養) ①	2	○	○
42. 【演習】(経管栄養) ②	2	○	○
43. 【演習】(経管栄養) ③	2	○	○
44. 【演習】(経管栄養) ④	2	○	○
45. 【演習】(経管栄養) ⑤	2	○	○

その他	関連科目
※実務経験がある教員が担当する科目である。	